鈴木警部（警務局理蕃課）

玉咲ツヅラフヂ三坪肥大率試驗區成績

三坪肥大率試驗區成績　昭和十六年

州廳	栽培地	標高	土質	平坦傾斜地別	植付月日	植付量	採取月日	採取量 即日秤量	採取量 翌日秤量	肥大率 即日	肥大率 翌日	病蟲害の狀況	備考
臺北	タンオウ	五三尺	砂土	平坦	五・二〇	一,五〇〇瓦	一・二〇	一,五〇〇瓦	一,四九〇瓦	一・〇〇倍	〇・九九倍		植付量多きは（七二〇瓦以上）芋大に過ぎたるなり。
	カンケイ	八二五	砂礫	同	五・二一	一,〇〇〇	一一・一八	一,五八〇	一,五六〇	一・五八	一・五六		
	シホウリン	七五〇	砂土	同	六・四	二,五〇〇	一一・二	七,五〇〇	七,四五〇	三・〇〇	二・九八		
	ダイゲン	八二五	砂礫	同	五・五	三,〇〇〇	一二・一〇	四,八〇〇	四,七〇〇	一・六〇	一・五七		
	大濁水	一三三	礫質壤土	同	五・一〇	一,五〇〇	一・二六	七,七〇〇	七,六〇〇	五・一三	五・〇七		
	ブタ1	二,七〇〇	同	同	五・一四	二,二〇〇	一・二六	五,六九〇	五,六二〇	二・五八	二・五五		
	大南澳産業指導所	八六	砂質土	同	一・一〇	七四〇	一・一五	一三,八二〇	一三,二〇〇	一八・六九	一七・八四		
	リヨヘン	二,七〇三	砂質壤土	同	四・一〇	七六〇	一二・二七	九,九〇〇	九,〇〇〇	一三・〇三	一一・八四	白絹病の被害	
	シヨウラ	五〇〇	砂土	同	一・九	七〇〇	一二・二三	二,一〇〇	二,〇〇〇	三・〇〇	二・八六		
	ボンボン	一,五〇〇	壤土	緩傾斜	四・五	一,五〇〇	一二・一八	一,〇〇〇	九〇〇	〇・六七	〇・六〇	腐敗一〇株	
	トウルイ	五〇〇	砂土	平坦	一・九	四,〇〇〇	一二・二〇	二,〇〇〇	一,九〇〇	〇・五〇	〇・四八	同右	
	バヌン	八〇〇	同	同	五・一八	一,八〇〇	一二・二六	一,四〇〇	一,三五〇	〇・七八	〇・六九	同五株	
	シキクン	二,六一六	砂質壤土	傾斜	四・二七	七二〇	一二・二三	七八〇	七七〇	一・〇八	一・〇七		
	ピヤナン	三,六一六	同	同	六・五	七二〇	一二・二四	九二〇	八〇〇	一・二八	一・一一		
	タンピヤ	六六〇	粘土	同	一・四	七二〇	一二・一九	九二〇	八〇四	一・二八	一・一三		
	ウライ	六六〇	砂礫	同	五・一〇	七二〇	一二・二三	一,八〇〇	一,四四〇	二・五〇	二・〇〇		
	リモガン	一,六一八	粘土	同	一二・二八	七二〇	一二・二〇	一,八四〇	一,八〇〇	二・五六	二・五〇		
	タラナン	一,六五〇	壤土	同	一二・二八	七二〇	一二・一〇	三,二四〇	三,一六八	四・五〇	四・四〇	腐敗一株	
	計					二五,五二〇		六八,五〇〇	六五,四五三				

州廳	栽培地	標高（尺）	土質	平坦傾斜地別	植付月日	植付量（瓦）	採取月日	採取量 即日秤量（瓦）	採取量 翌日秤量（瓦）	肥大率 即日（倍）	肥大率 翌日（倍）	病蟲害の状況	備考
新	角板山	一、四五〇	粘土	平坦	一・二二	四、九五〇	三・二〇	六、四八〇	五、八三〇	一・三〇	一・一八		各試作地共植付量多きは（七二〇グラム以上の箇所）種芋大に過ぎたるなり。
	カソノ	二、三〇〇	植質土	傾斜	一・二九	四、八五〇	三・二五	七、五三〇	六、五〇〇	一・六〇	一・三四		
	竹頭角	一、三〇〇	粘土	平坦	一・一五	二、〇〇〇	三・三〇	三、五〇〇	三、四〇〇	一・七五	一・七〇		
	ウライ	一、一〇〇	同	同	一・三〇	一、〇〇〇	三・二七	四、〇〇〇	三、九〇〇	四・〇〇	三・九〇		
	ガオガン	二、五〇〇	同	同	一・一五	七二〇	三・四	三、六〇〇	三、一八〇	五・〇〇	四・四一		
	カウイラン	二、五〇〇	砂礫	傾斜	二・二七	五四〇	三・三〇	一、一〇〇	一、〇八〇	二・〇四	二・〇〇		
	シブナオ	二、〇〇〇	粘土	同	一・二〇	二、七〇〇	三・三〇	五、四〇〇	五、〇〇〇	二・〇〇	一・八五		
	尖石産業指導所	一、一〇〇	礫質壤土	平坦	三・二九	一、一〇〇	三・二九	三、七〇〇	三、五〇〇	三・〇八	二・九一		
	尖石	一、〇〇〇	砂質土	同	八・〇〇	—	—	—	—	—	—		土地返還移植成績不明
	カラパイ	一、〇〇〇	同	同	三・三〇	一、〇〇〇	三・三一	—	—	—	—	腐敗全部	
	ナロ	一、八〇〇	砂礫質壤土	同	四・一〇	七二〇	三・二五	三三〇	三一〇	〇・四五	〇・四三		
	錦路	三、二〇〇	壤土	同	三・二五	七八七	三・七	一、九七五	一、七四〇	二・五一	三・二一		
	タイヤカン	四、七九八	腐植	同	三・三	一、〇〇五	三・一五	二、二五〇	二、一〇〇	二・二四	二・〇〇		
	タバホ	三、五〇〇	砂礫質壤土	傾斜	四・一	七二〇	三・一九	一、〇二〇	九三〇	一・四三	一・二九		
	養老	四、一〇八	同	平坦	三・一九	七三五	三・二〇	九一四	九〇五	一・二六	一・二五		
	控溪	三、九五〇	砂質壤土	同	一・八	六八八	三・三	一、三〇〇	一、〇五〇	一・八九	一・五三		
	シパジー	一、二〇〇	粘質壤土	同	一・二〇	七〇〇	三・二六	一二三	一二〇	〇・一七	〇・一七	腐敗一〇株	
	シイガオ	一、二五〇	砂質壤土	傾斜	三・三	一、五〇〇	三・二九	—	—	—	—	全部腐敗	
	牧山	三、二〇〇	粘質壤土	同	三・二五	三、〇〇〇	三・一八	四、八〇〇	四、二〇〇	一・六〇	一・四〇		
	鹿場	二、四〇〇	砂礫質壤土	同	三・二〇	七六五	三・二六	五五〇	五〇〇	〇・七二	〇・六五		
	大東河	一、〇〇〇	砂質壤土	平坦	一・二五	一、八〇〇	三・二〇	二、〇〇〇	一、八五〇	一・一一	一・〇三		
	大南	三、〇〇〇	粘質壤土	傾斜	五・二〇	三、二〇〇	三・二八	三、四〇〇	三、三〇〇	一・〇六	一・〇三		

竹	パカリ	一、八〇〇	砂質壤土	同	三・二〇	五六〇	三・二〇	九一五	九〇〇	一・六三	一・六〇	
	マバトアン	一、八〇〇	同	同	一・二〇	五四〇	三・三〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	二・三三	一・八五	
	高熊峠	二、五〇〇	粘質壤土	同	一・一〇	一、〇〇〇	三・一八	一、七〇〇	一、四〇〇	一・七〇	一・四〇	腐敗一一株
	マナバン	二、一〇〇	腐植土	平坦	三・一〇	六〇〇	三・一八	二、〇〇〇	一、八〇〇	三・三三	三・〇〇	
	象鼻	二、一〇〇	壤土	同	三・二九	七二〇	三・二三	五、〇〇〇	四、七五〇	六・九四	六・五九	
	梅園	二、四〇〇	粘質壤土	同	一・七	九〇〇	三・一九	五、六二四	五、四九〇	六・二四	六・一〇	
	同	二、四〇〇	同	同	一・九	八五〇	三・一九	六、二二五	六、〇四〇	七・三三	七・一〇	
	マビルハ	二、六〇〇	同	同	三・二〇	七二〇	三・二八	一、〇五〇	九六〇	一・四五	一・三三	腐敗一〇株
	汶水	一、八〇〇	砂質壤土	同	—	—	—	—	—	—	—	種芋全部腐敗し植付け不能により廢園す。
	横龍山	一、八〇〇	同	傾斜	—	—	—	—	—	—	—	同
	計					二八、四一五		七七、六七五	七二、七三五			
臺中	埋伏坪	一、六〇〇	砂質壤土	平坦	一・一六	七三〇	三・二五	一、四六〇	一、三六〇	二・〇〇	一・八六	白蟻害七株 植付量多き箇所(七二〇瓦以上)は種芋の大なるを植付けたるに因る。
	ローブゴー	一、七五〇	同	同	五・二二	九一〇	三・二五	一、二七一	一、九八七	一・四〇	一・三三	腐敗五株
	雪山坑	一、八〇〇	同	同	五・二二	八〇〇	三・二五	一、〇三〇	一、〇〇〇	一・二九	一・二五	
	南勢	一、九〇〇	礫質壤土	同	二・四	八〇〇	三・二六	一、二〇〇	一、〇四〇	一・五〇	一・三〇	
	裡冷	二、二〇〇	砂質壤土	同	一・二六	五四〇	三・二〇	八二〇	六四八	一・五〇	一・二〇	
	久良栖	二、六〇〇	同	同	一・三二	九〇〇	三・三五	一、二〇〇	一、一〇〇	一・三三	一・二二	腐敗四株
	東埔	三、五〇〇	同	同	一・一〇	五〇〇	三・三三	一、〇〇〇	九〇〇	二・〇〇	一・八〇	
	望郷	三、〇〇〇	同	同	一・一一	七二〇	一・四	四、〇〇〇	三、五〇〇	五・五六	四・八六	
	ナマカバン	二、九〇〇	同	同	二・一五	一、〇二七	三・二五	一、五一一	一、五〇五	一・四七	一・四六	
	新郷	三、〇〇〇	同	同	一・二〇	二、八〇〇	一・一四	三、二五〇	三、一二〇	一・一五	一・一一	
	豐丘	一、八〇〇	同	傾斜	一・二五	二、〇〇〇	三・二三	三、二〇〇	三、〇〇〇	一・六〇	一・五〇	
	内茅埔	一、五七五	腐植土	平坦	一・一六	一〇、〇〇〇	三・一一	一五、〇〇〇	一四、二〇〇	一・五〇	一・四〇	
	人倫	一、七〇〇	粘土	同	四・一一	六、〇〇〇	三・三三	一二、〇〇〇	一一、五〇〇	二・〇〇	一・九三	腐敗六株

州廳	栽培地	標高	土質	平坦傾斜地別	植付月日	植付量	採取月日	採取量 即日秤量	採取量 翌日秤量	肥大率 即日	肥大率 翌日	病蟲害の状況	備考
臺中	イシガン	二、〇〇〇尺	粘土	傾斜	一・三〇	七、〇〇〇瓦	一・一七	七、二〇〇瓦	七、一〇〇瓦	一・〇三倍	一・〇一倍		
	タマロワン	一、二七三	砂質壤土	同	二・一六	一、六八〇	三・一〇	二、八五六	二、五七一	一・七〇	一・六〇		
	蕨	二、五〇八	赤粘土	同	四・一五	七、〇〇〇	三・一九	一八、〇〇〇	一七、〇九〇	二・五七	二・四四		
	霧社農業講習所	三、七六〇	砂質壤土	平坦	三・一四	六、三〇〇	三・一〇	七、八五〇	七、六〇〇	一・二四	一・二一		
	櫻	四、〇〇〇	同	同	一・一〇	一、〇〇〇	三・二五	一、五〇〇	一、四〇〇	一・五〇	一・四〇		
	過坑	二、四〇〇	同	傾斜	一・二〇	二、〇〇〇	三・二五	二、五〇〇	二、四〇〇	一・二五	一・二〇		
	武界	二、四〇〇	同	平坦	一・一五	五、〇〇〇	三・二〇	七、三〇〇	七、〇〇〇	一・四六	一・四〇		
	川中島	一、六五〇	同	同	三・二五	六八〇	三・一三	二、一七六	二、〇六三	三・二〇	三・〇三		
	バイバラ	一、八〇〇	礫質壤土	同	一・一九	一、二三〇	三・二四	二、三〇〇	一、六五〇	一・八八	一・三四		
	イナゴ	三、〇〇〇	砂質壤土	同	二・四	一五、〇〇〇	三・二四	一〇、二〇〇	八、五〇〇	〇・六八	〇・五七		腐敗一三株
	トロック	四、八五〇	同	同	一・三	二、二九〇	三・二五	一、一五四	一、一四九	〇・五〇	〇・四九		同一五株
	干卓萬	二、六〇〇	同	同	一・六	一、一六八	三・二五	一、五六七	一、三八七	一・三六	一・一八		
	マシトバオン	三、八〇八	同	同	一・七	六、六五〇	三・二四	八、五〇〇	八、〇〇〇	一・二八	一・二三		
	マカナジー	三、八二八	同	傾斜	四・三	六〇〇	三・二三	一、二〇〇	一、一〇〇	二・〇〇	一・八〇		
	萬大	三、五〇〇	同	平坦	一・二三	三、五〇〇	三・二七	四、五〇〇	四、三〇〇	一・〇三	一・〇三		
	霧社	三、七九〇	同	同	一・五	三、二五〇	三・二五	三、五〇〇	三、三五〇	一・五六	一・四八		
	富士	四、六七〇	同	同	一・二五	一〇、〇〇〇	一・六	八、一〇〇	八、〇〇〇	〇・八一	〇・八〇	腐敗九株	
	タウツア	四、六七〇	同	同	一・四	一〇、〇〇〇	一・五	八、二五〇	七、七五〇	〇・八三	〇・七六	同	
	計					一三、〇七五		一四五、五八四	一三七、二六九				
臺	ラ、ウヤ	四、〇〇〇	礫質壤土	傾斜	二・二〇	一、一五〇	一・二八	四、六〇〇	四、六〇〇	四・〇〇	四・〇〇		
	ラ、、チ	二、八〇〇	同	同	三・四	二、〇〇〇	三・二〇	二、六〇〇	二、四〇〇	一・三〇	一・二〇		

高雄	トナ	一,五〇〇	砂礫壤土	平坦	六・三	七三〇	三・二三	七七〇	七五〇	一・〇七	一・〇四	腐敗七株
	マガ	七五〇	砂利粘土	同	五・三〇	七三〇	三・二〇	八七〇	八四四	一・二二	一・一七	同七株
	ハイセン	三,五〇〇	同	同	六・一三	七二〇	三・七	八〇〇	七四八	一・一一	一・〇四	同一〇株
	ガニ	三,六〇〇	砂土	同	六・二七	七三〇	三・一八	四八〇	四七三	〇・六七	〇・六六	同一六株
	ビビユウ	二,五〇〇	砂質壤土	同	五・三〇	七三〇	三・一八	六六〇	六四八	〇・九二	〇・九〇	同六、株
	ラボラン	二,七〇〇	砂礫壤土	同	六・一七	七三〇	二・一九	五九四	五八六	〇・八三	〇・八一	同二株
	ラックス	三,〇〇〇	同	同	五・三〇	七三〇	三・一八	五四三	五三九	〇・七五	〇・七三	
	マスホワル	三,五〇〇	同	同	五・七	七三〇	三・一八	一,一〇〇	九九四	一・五三	一・三八	同二株
	マガツン	二,五〇〇	砂土	同	六・一〇	七三〇	三・三〇	八五〇	八三〇	一・一八	一・一四	
	タカヌワ	二,八〇〇	砂礫	同	六・一	七三〇	三・二〇	八三〇	八二〇	一・二四	一・一三	
	サンテイモン	九〇〇	礫質壤土	同	六・一六	八六〇	三・二三	一,四六〇	一,三七〇	一・七〇	一・五九	腐敗若干
	トクグン	二,五〇〇	砂礫壤土	同	五・二五	七三〇	三・二三	五,八〇〇	五,五〇〇	八・〇六	七・六四	
	トア	二,二〇〇	同	同	五・二〇	七三〇	三・一九	八六四	七九二	一・二〇	一・一〇	鳥蟲害あり
	産業指導所	四〇五	同	傾斜	五・一〇	一,〇八〇	三・一四	一,一二五	一,一二三	一・〇四	一・〇三	腐敗若干
	アンバカ	五〇〇	同	平坦	六・一七	七三〇	三・二三	七四九	七二七	一・〇四	一・〇一	
	カウ	五〇〇	同	同	一・一〇	八二〇	三・二〇	六三〇	六二〇	〇・七八	〇・七五	病蟲害あり
	コチヤボカン	二,九九〇	粘質壤土	同	五・二九	七三三	三・一〇	一,二〇〇	一,一八九	一・六六	一・六四	
	マヌル	三,〇〇〇	礫土	同	六・五	七三〇	三・八	八三三	八〇三	一・一六	一・一三	腐敗若干
	イラ	一,八〇〇	壤土	同	五・三〇	七二〇	三・一三	八六〇	八六〇	一・一九	一・一九	同
南	タッパン	三,三五〇	同	同	一・一五	二,五〇〇	三・二九	三,〇〇〇	二,八八〇	一・二〇	一・一五	
	ニヤウチナ	三,三〇〇	同	平坦	一・一七	一,〇〇〇	三・三一	二,一〇〇	一,八〇〇	二・一〇	一・八〇	
	サビキ	一,三九〇	同	同	五・八	三,〇〇〇	三・二五	二,八〇〇	二,五〇〇	〇・九三	〇・八三	
	計					九,六五〇		一五,一〇〇	一四,一八〇			

州廳	栽培地	標高	土質	平坦傾斜地別	植付月日	植付量	採取月日	採取量 即日秤量	採取量 翌日秤量	肥大率 即日	肥大率 翌日	病蟲害の狀況	備考
高雄	ブタイ	尺 二,六八〇	砂質壤土	平坦	五・二三	瓦 七二〇	一二・二〇	瓦 一,三〇〇	瓦 一,三五〇	倍 一・八二	倍 一・七四	腐敗若干	
	アデル	四,〇〇〇	砂礫壤土	傾斜	五・二五	七二〇	一二・二一	七七八	七五五	一・〇八	一・〇五	同	
	カナモデサン	一,六五〇	粘質礫土	平坦	五・二八	七二〇	一二・二〇	一,四四〇	一,〇八〇	二・〇〇	一・五〇		
	ワカパ	一,〇七二	砂質壤土	傾斜	五・二八	八〇〇	一二・二八	七〇〇	六五〇	〇・八八	〇・八一	腐敗一〇株	
	下パイワン	二,九七〇	礫土	同	五・一〇	七二〇	一二・八	三,八七五	三,一二五	五・三八	四・三四	同一〇株	
	ピユマ	三,六〇〇	砂礫	同	五・二〇	七二〇	一二・二七	九〇〇	八九九	一・二五	一・二五		
	アマワン	二,九六四	同	平坦	六・二七	七二〇	一二・一六	五〇七	五〇五	〇・七〇	〇・七〇	三〇%腐敗	
	アブタン	一,六四六	砂質	傾斜	六・一九	七二〇	一二・二六	四八〇	四五〇	〇・六七	〇・六三	五〇%同	
	カピヤン	二,四〇二	同	平坦	三・三〇	七二〇	—	—	—	—	—	腐敗全部	
	クワルス	三,四〇〇	同	同	二・九	七二〇	一二・一〇	九二〇	九〇〇	一・二八	一・二五		
	ラライ	一,九〇〇	砂礫粘土	傾斜	四・一	七二〇	一二・一一	一,六八〇	一,五八〇	二・三三	二・一九	一部腐敗	
	ボンガリ	二,三〇〇	砂礫	同	三・三〇	七二〇	一二・一三	一,七九〇	一,六九〇	二・五〇	二・三四		
	クナナウ	三,九〇〇	砂土	同	五・二〇	七二〇	一二・五	一,四四〇	一,四四〇	二・〇〇	二・〇〇		
	キナリマン	一,七〇〇	同	平坦	五・二九	七二〇	一二・二五	五〇〇	四八〇	〇・六九	〇・六七	腐敗一〇株	
	スボン	一,四〇〇	砂礫土	傾斜	五・三〇	四九〇	一二・三一	九八〇	九八〇	二・〇〇	二・〇〇	三〇%腐敗	
	内シタウ	二,〇〇〇	砂土	平坦	五・三〇	七二〇	一二・三〇	一,七八〇	一,七〇〇	二・四七	二・三六	腐敗一〇株	
	ソウボウ	九〇〇	粘質	同	五・一三	七二〇	一一・二九	一,〇四四	一,〇〇八	一・四五	一・四〇		
	ボタンロ	四九五	砂土	同	七・二八	七〇〇	一二・一一	一,三〇〇	一,〇五〇	一・八六	一・五〇	若干腐敗	
	クスクス	九〇〇	礫質壤土	同	六・一〇	七二〇	一二・二一	六九〇	六九〇	〇・九六	〇・九六	腐敗若干	
	ボタン	八九五	同	同	五・三〇	七二〇	一二・二五	五三一	五三〇	〇・七四	〇・七四	同	
	シナケ	九三〇	同	傾斜	六・一六	七二〇	一二・一六	六四〇	六四〇	〇・八九	〇・八九	同	

	チョウカチライ	三五〇	同	平坦	五・一五	七二〇	一三・三〇	六九〇	六九〇	〇・九六	〇・九六	同	
	計					二九、九四三		四四、九七二	四二、三六八				
臺東	リト	三、五六〇	砂質	平坦	一・三二	七二〇	一三・一五	一、五〇〇	一、四〇〇	二・一〇	一・九〇		
	ブルブル	二、九〇四	同	同	一・二五	七二〇	一三・二五	三、〇〇〇	二、八〇〇	四・二〇	三・九〇		
	エバコ	二、七二〇	腐植土	傾斜	一・一七	七二〇	一三・一九	六、七〇〇	六、〇〇〇	九・三〇	八・三〇		
	新武路	一、五五〇	砂土	平坦	一・一五	七三〇	一三・三五	三、〇〇〇	二、七〇〇	四・一〇	三・七〇	腐敗せるものあり	
	鈴鹿	一、二八〇	同	同	一・一五	一、〇〇〇	一三・三〇	四、〇五〇	四、〇二〇	四・〇〇	四・〇〇		
	池上	一、一五五	同	同	一・一五	七二〇	一三・二八	二、六〇〇	二、六〇〇	三・六〇	三・六〇		
	大埔	一、〇〇〇	同	同	一・一六	七二〇	一三・一五	二、八〇〇	二、六〇〇	三・九〇	三・六〇		
	農ハイトウン講	八〇〇	同	同	五・一〇	九〇〇	一三・二八	三、八五〇	三、六八〇	四・二〇	四・〇〇		
	楠	一、〇五二	同	同	一・一〇	八五〇	一三・二八	一、九五〇	一、九四〇	二・三〇	二・三〇		
	里壠山	一、〇五七	同	同	一・一八	八〇〇	一三・二七	一、八〇〇	一、八〇〇	二・三〇	二・三〇		
	カナテン	一、三〇〇	粘土	傾斜	一・一四	九五〇	一三・二七	九〇〇	八〇〇	〇・九〇	〇・八〇	白蟻害枯死六株	
	パシカウ渓	一、八二五	砂質壌土	平坦	一・一八	四五〇	一三・二七	四、六〇〇	四、五〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇		
	紅葉谷	五九七	砂土	同	一・一六	七二〇	一三・一五	三、三〇〇	三、三〇〇	四・六〇	四・六〇		
	中野	八〇〇	同	同	三・一五	七二〇	一三・二六	三、〇〇〇	二、九〇〇	四・二〇	四・〇〇		
	カラタラン	二、八〇〇	同	同	三・二四	二、一六〇	一三・二五	二、四〇〇	二、二七五	一・一〇	一・一〇		
	ビラウ	二、八〇〇	同	傾斜	一・二九	七二〇	一三・二二	三、〇〇〇	二、九二五	四・六〇	四・一〇	腐敗五株	
	大南	四四五	砂礫	平坦	一・二〇	四、二九〇	一三・二〇	七、七八〇	六、八〇〇	七・九〇	六・八〇		種芋大に過ぎたり
	近黄	一、〇九〇	同	同	一・三〇	三、〇〇〇	一三・二四	五、四八〇	五、〇〇〇	一・八〇	一・七〇		同
	トアバル	六〇〇	砂土	同	一・六	一〇、〇〇〇	一三・二〇	一三、六三五	一三、五〇〇	一・四〇	一・四〇		
	チョカクライ	二、七〇〇	粘質	同	一・三〇	二、〇〇〇	一三・二六	二、二〇〇	二、〇〇〇	一・一〇	一・〇〇		
	タバカス	二、五〇〇	砂礫	同	一・三〇	二、〇〇〇	一三・二六	二、六〇〇	二、五〇〇	一・三〇	一・三〇	腐敗三株	
	ラクラク	一			一	一	一	一	一	一	一		ハイト、ワン農業講習所に移す。

農業部農業試驗所 1895 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

州廳	栽培地	標高（尺）	土質	平坦傾斜地別	植付月日	植付量（瓩）	採取月日	採取量 即日秤量（瓩）	採取量 翌日秤量（瓩）	肥大率 即日（倍）	肥大率 翌日（倍）	病蟲害の状況	備考
臺東	壽	—			—	—	—	—	—	—	—		パシカウ溪に移す。流失のため成績不明なり
	ハイトウン	—			—	—	—	—	—	—	—		
	アロエ	—			—	—	—	—	—	—	—		同
	紅頭嶼	—			—	—	—	—	—	—	—		同
	計					三四,八九〇		八〇,一四五	七六,〇四〇				
花蓮	キネボウ	一五八	砂質壤土	平坦	三·三〇	七二〇	一二·一四	三,二五〇	三,一八〇	四·五〇	四·四〇		
	ハロク台	三,二〇〇	埴質壤土	傾斜	三·二四	七八〇	一二·一四	一,六六〇	一,五二〇	二·一〇	一·九〇		
	サカダン	三,七〇〇	同	同	一·二〇	七〇〇	一二·一一	三,五〇〇	三,二〇〇	五·〇〇	四·五〇		
	シラガン	一,六〇〇	同	平坦	二·一	六八〇	一二·一五	三,四八〇	三,一五〇	五·一〇	四·六〇		
	ブセガン	一六五	砂土	同	五·一六	七〇〇	一二·一〇	一,二〇〇	一,〇〇〇	一·七〇	一·四〇	腐敗一〇株	
	ブスリン	九〇	砂質壤土	同	三·三〇	一,二〇〇	一二·一一	四,一一〇	三,九五〇	三·四〇	三·二〇	同二株	
	三棧	九〇	同	同	五·一七	六〇〇	一二·一四	九六〇	九〇〇	一·六〇	一·五〇	蝸牛害一〇株	
	カウワン	一二五	壤土	同	五·二一	七五〇	一二·一八	一,一〇〇	九八〇	一·五〇	一·三〇		
	エカドサン	一〇〇	砂土	同	三·二九	七〇〇	一二·一五	七一五	七〇〇	一·二〇	一·〇〇	同	
	大山	一二〇	砂質壤土	同	一·一〇	六五〇	一二·一三	一,六五〇	一,五〇〇	二·五〇	二·三〇		
	銅門	五二〇	壤土	傾斜	三·三〇	八〇〇	一二·一三	二,〇〇〇	一,七〇〇	二·五〇	二·一〇		
	タモナン	五一八	砂質壤土	平坦	三·三一	七〇〇	一二·一八	四〇〇	三七〇	〇·六〇	〇·五〇	腐敗一五株	
	ブラナオ	一,〇〇〇	埴質壤土	同	三·三〇	八〇〇	一二·一一	二,四〇〇	二,〇五〇	三·〇〇	二·六〇		
	チヤカン	五四〇	砂質壤土	同	一·四	九〇〇	一二·一四	三,九二〇	三,七七〇	四·四〇	四·二〇		
	エフナン	六六〇	同	同	四·二五	八〇〇	一二·一三	一,六一〇	一,二八〇	二·〇〇	一·六〇		

蓮港	ロプサン	六〇〇	埴質壤土	同	三・一八	一,〇三〇	三・一六	一,五〇〇	一,四〇〇	一・五〇	一・四〇	腐敗一五株
	太平	三六六	砂質壤土	同	三・二二	七三〇	三・一七	一,四四〇	一,三六〇	二・〇〇	一・九〇	蝸牛の害二株
	中平	四〇〇	同	同	三・一〇	七三一	三・一七	二,三一〇	二,三〇〇	三・二〇	三・〇〇	枯死二〇株
	バネタ	五三七	砂礫土	同	一・五	七三〇	三・一六	八〇〇	七六〇	一・一〇	一・一〇	
	卓麓	六六六	砂質壤土	同	五・一三	八六四	三・二八	三,〇五三	二,八六四	三・五〇	三・三〇	
	コノホン	六四三	壤土	同	四・五	七九二	三・一八	六,〇〇〇	五,八〇〇	七・六〇	七・三〇	
	嵜天	七〇〇	砂質壤土	同	四・一五	七三〇	三・一七	一,二三〇	一,二三〇	一・七〇	一・七〇	
	秀巒	一,〇〇〇	同	同	四・一	七五〇	三・六	二,三五〇	二,一五〇	三・〇〇	二・九〇	
	石壁	五九七	同	同	二・一〇	七三〇	三・二三	五,二六〇	四,九八七	七・二〇	六・八〇	
	ブセガン産業指導所	一八三	同	同	三・三一	七三〇	三・三	五,〇〇〇	四,二〇〇	六・九〇	五・八〇	
	清水	—			—	—	—	—	—	—	—	暴風雨のため流失成績不明
	佐倉	—			—	—	—	—	—	—	—	同
	タッキリ	—			—	—	—	—	—	—	—	同
	新城	—			—	—	—	—	—	—	—	同
	計					一九,二四七		六〇,七九七	五六,一九一			
合計						二六〇,二八〇		四九二,七七三	四六三,二三五			

(警務局理蕃課)

警務局に於ける玉唉栽培は、昭和十六年度に於て、官設苗圃一二六箇所、二一甲五分に一萬七千瓩を植付けた。甲當八〇〇瓩平均である。其收穫高は、二萬二千瓩であつて、倍率一、二八倍を示した。昨年の倍率一、五七倍に比較して、若干の低下である。之は昨年の分は實際に掘取らずに推定の個所が多かつた爲ならんと思はれる。本年の分は極く僅少のものが推定であるが、外は全部實際に秤量したものである。

高砂族に栽培せしめたものは、二四甲一萬六千七百瓩であつて、甲當植付量平均六八〇瓩である。三坪園の成績を參照して適地と認めらるゝ八九箇所を選定して、五、六月頃植付をしたのであるが、收穫量は一部推定をしたのであるが、一萬七千瓩、倍率一、一倍となつてゐる。此の外に三坪肥大率試驗區、卽ち三坪園と云ふものを從來したことのある箇所全部の一八一個所に設置した。其の設置標準は面積を三坪に限定し、圃場は三尺の揚畦、株間一尺、覆土一寸五分、肥料としては堆肥のみ四貫五百匁、種薯は三十瓦內外の切斷しない丸薯として、十二月下旬に植付け、翌年十二月上旬に掘起し重量を調べること。管理法としては支柱を設け、除草を行ひ、過乾と認むるときは草藁等にて地上を覆ふ事にしたのである。其の成績は平均一・九倍で、二倍以上になつた處が七〇箇所であつて、其の內四倍以上のものが三〇箇所であり、四倍以上は臺北四、新竹五、臺中一、臺南一、高雄二、臺東一〇、花蓮港七、となつて居て、東部に適地が多いかの樣に想像せられるのである。此の中臺北大南澳の十八倍、リヨヘンの十三倍、臺東パンカウ溪の十倍は特に優良であつた。

昭和十七年の栽培計畫は、先づ官設苗圃であるが、三坪園の成績及官設苗圃の成績を綜合判斷して、二倍以上に達し、又は達する可能性のある場所九〇箇所二〇甲步を選定して、設置しつゝある。前年に比べて三六箇所を廢止したのである。

高砂族栽培の分は、官設苗圃から增加したもの、及廢止園の分を分與して栽培せんとする計畫であつて、大體前年度(二四甲)の栽培面積が得られる豫定である。

三坪園は昭和十五、十六年度と引續いて設置したが、昭和十七年度も設置して居る。其の要領は大體前年通りであるが、變つた點は種薯を十五瓦の新薯の切斷しないものとして、古薯を用ひぬこと。植付時期を一月下旬、採取時期を翌年一月下旬としたこと。堆肥四貫五百匁を圃場全面に撒布したこと。及敷藁又は敷草二貫七百匁を植付と同時になすことである。其の理由は、新芋と古芋とは倍率に相違があるので、新芋に一定し、十五瓦の種薯と從來の二〇瓦では、三六株の少量ながら仲々揃へ難い實狀からである。

植付時期及收穫時期には深い意味は無い、敷藁は玉喉が過乾を忌む作物であるので、一齊に植付と同時に、必ず敷藁をなすと云ふことにしたのである

堆肥の施肥法はこれを圃場全部に施用して、種薯に接觸することにより腐敗するが如きことを避けんとした爲である。

本年度は一層研究的に施行し、嚴重に其標準量を實行して居るので、適地選定上得る處が尠くないと信じてゐる。

栽培薯の搬出に就いては、昭和十六年度始めて高砂族に試作せしめたのであるが、倍率が思はしくないので、本年度には大した搬出は望めない狀態である。

渡邊技手（臺北州理蕃課）

(一) 種薯大小に依る肥大率試驗

一、試驗場所　大南澳産業指導所

二、試作地土質　砂土

三、植付及掘取時期　昭和十六年一月十日植付
昭和十七年一月十五日掘取

四、管理　肥料基肥として堆肥を施し、七回の除草を行ひ、除草の都度培土を行つた。又竹小枝の支柱を施した。

種薯番號	種塊根重量	掘取秤量	倍率
一	20瓦	300瓦	1,500%
二	25	900	3,600
三	20	80	400
四	25	830	3,320
五	25	300	1,200
六	25	—	缺株
七	20	420	2,100
八	25	950	3,800
九	25	20	80
一〇	25	110	400
一一	20	200	1,000
一二	20	800	4,000
一三	30	900	3,000
一四	18	100	550
一五	18	700	3,880
一六	20	腐敗	缺株

種薯番號	種塊根重量	掘取秤量	倍率	種薯番號	種塊根重量	掘取秤量	倍率
一七	二五瓦	三二〇瓦	六二〇%	二六	一八瓦	四〇〇瓦	二,二二〇%
一八	一五	六〇〇	四,〇〇〇	二七	一五	六二〇	四,一三〇
一九	二〇	三二〇	一,六〇〇	二八	二〇	四〇〇	二,〇〇〇
二〇	一八	二〇〇	一,一一〇	二九	二〇	五三〇	二,六五〇
二一	一八	三〇〇	一,六六〇	三〇	一五	四五〇	三,〇〇〇
二二	二五	三〇〇	一,二〇〇	三一	一八	三五〇	一,九四〇
二三	二〇	四五〇	二,二五〇	三二	一八	五八〇	三,二二〇
二四	一五	一八〇	一,二〇〇	三三	一五	六五〇	四,三三〇
二五	一八	六〇〇	三,三三〇	三四	一八	二五〇	一,四四〇

以上の結果一般試作區に於けるものを綜合對照し、大塊のものは肥大低く、二〇瓦乃至二五瓦程度のものを種芋とし、最適と認められる。

（二）庇蔭試驗

或一程度の庇蔭が、根部肥大に有效なりとの試驗成績に鑑み、州下カンチイ駐在所に於て、玉吠園に「インディコフェラ」を混植したが成績左記の通りにして、其の成績は豫期に反し不良に終つた。

一般試作園に於ては、十月末既に落葉したが「インディコフェラ」を混植區は十二月に至るも落葉せず、外觀成績良好に見へたが、掘取調査するに全然子薯を付けず、種薯の肥大も甚だ不良であつた。

（三）施肥管理に對する考察

一、玉吠の集約的栽培には、相當多量の有機質肥料（堆肥等）の施肥を必要と認められる。

二、畑栽培の場合、高畦を必要とし、支柱をなし、除草を必要とする。

三、過乾に至らざる限り、地面に日光を當つるを可とする。

四、施肥としては、堆肥を基肥として一時多施するを最適と認められる。

五、除草の都度培土を要する。

六、土質は排水良好の有機質に富む砂質壤土を適地と認む。

池內技手（新竹州理蕃課）

新竹州に於ては、警務局の方針に基き、昭和十六年度官設苗圃は、昭和十四年及昭和十五年度に於て栽植せる苗圃より、適地のみ選定經營し、他は之を廢止し、適地集中主義を採つたのである。

高砂族試作は、廢止園薯及增加種薯を栽培條件の可良と認むる蕃社三十二社に配布栽植せしめて、試作をなしたのである。

官設苗圃は三甲六分八厘（二十六箇所）であつて、植付量は二、五七六・二一瓩、收量は實收竝に推定で正確ではないが三、七〇六・五瓩、倍率は平均一・四四倍である。中には二・八五倍のものもあるが、之を檢討するに大面積の栽培圃は、概して肥大率低く、小面積の集約的に管理した苗圃は、肥大率が高い樣である。この事實より適地に集約的經營することが肝要である。更に玉唉は他の作物に比し、土地を選び、濕氣の多少は其の生育に大いに影響する樣である。

玉唉の栽培に於て集約に之を經營しなければ、良好な成果を得ることが出來ないことは試作の結果明かである。然らば幾何の勞働量が栽培に當り必要であるか、參考迄に示せば次の如くである。

玉唉ツヅラフヂ一甲步勞働費（使用人高砂族）

初年

種別	單位	數量	單價	價格	摘要
伐採	人	三〇	円 一・〇〇	円 三〇・〇〇	
開墾	人	一五〇	一・〇〇	一五〇・〇〇	

種別	單位	數量	單價	價格	摘要
整地	人	二〇	一・〇〇円	二〇・〇〇円	
植付	人	三〇	一・〇〇	三〇・〇〇	
除草	人	一二〇	一・〇〇	一二〇・〇〇	
其他管理	人	三〇	一・〇〇	三〇・〇〇	
收穫	人	三〇	一・〇〇	三〇・〇〇	（收量一、四〇〇斤）
計		四一〇		四一〇・〇〇	
二年					
耕起	人	二〇	一・〇〇	二〇・〇〇	
整地	人	二〇	一・〇〇	二〇・〇〇	
植付	人	三〇	一・〇〇	三〇・〇〇	
除草	人	一二〇	一・〇〇	一二〇・〇〇	
其他管理	人	三〇	一・〇〇	三〇・〇〇	
收穫	人	三〇	一・〇〇	三〇・〇〇	（收量一、四〇〇斤）
計		二五〇		二五〇・〇〇	

次に玉唊ツヅラフヂの肥大試驗を行つた結果を報告するが、玉唊が發芽より落葉迄に幾何位肥大するかを試みたのである。その試作要領は次の通りである。

一、栽培場所　大溪郡ガオガン駐在所構內（標高二、六〇〇尺）
一、使用種藷　一年生（三坪園肥大率試驗區のもの）
一、植付期　四月三日
一、收穫期　十二月九日及十二月十三日
一、土質　粘質壤土
一、地拵　一尺三寸位耕起

一、肥　料　基肥　鷄糞土五貫、木灰五貫、豚糞尿二斗
　　　　　　追肥　豚尿糞六月六升、七月六升、八月六升
一、株　間　二尺五寸、三尺畦
一、除　草　雜草除去の程度

右の條件の下に於ける成績は次の如し。

種薯大さ別	即日秤量	翌日秤量	肥大率	生育日數
三四瓦	一、〇九〇瓦	一、〇七五瓦	三、二五八%	二五〇日
一六瓦	一四〇瓦	一二五瓦	八七五%	二五四日
一五瓦	一六〇瓦	一四五瓦	一、〇六六%	同
一〇瓦	四一〇瓦	三八〇瓦	四、一〇〇%	同
一〇瓦	三、一五〇瓦	二八〇瓦	三、一五〇%	同

右の試作の結果により、玉咲は肥料分を多量に要求すると共に、相當の水濕が必要である。更に支柱を樹て、充分成長せしめることも肝要である。槪して之等は何れも薯は塊狀にならず、長さ二尺内外の擔根を四方に蔓延し、地上莖は丈餘に伸び、生育中に於て落葉せず、十二月に至つて葉紅みを帶びるに至つた。斯樣に集約的に栽培するに於ては、相當に肥大することを認め得たのである。

高砂族試作面積一三、四六二坪、植付量二、〇七四・七瓩、收量推定三、五〇三・五瓩であつて、倍率は一・一三倍である。彼等は粗放栽培を行ふ爲成績は良好でないが、將來彼等が玉咲を良く認識するに至れば、相當栽培するであらう。

田中技手（臺中州理蕃課）

玉咲栽培成績

臺中州蕃地に於ては、警務局の指示に基き、東勢、新高、能高三郡下三十一箇所に培率試驗中であるが、昨年度に於て一部試驗確實でなかつた爲、判然たる成績とは言へないが、大體の成績から見て、標高一、五〇〇から三、〇〇〇尺位の間

の自生地が成績良好の樣である。但し土質其の他により之も確定的のものではない。

三坪試驗區三十一箇所中、倍率二倍以上の三箇所の試作の結果に就て述ぶれば、望鄕三、〇〇〇尺、土壤は肥沃なる砂質腐植壤土である。昭和十六年一月十一日植付けたものを、昭和十七年一月四日掘採り、倍率調査したる處、四・八六倍であつた。蕨二、五〇八尺、土質は粘土質、栽植は前と同樣であるのに、其の倍率二・四四倍であつた。又川中島は砂質壤土で、標高一、六五〇尺、昭和十五年十二月二十五日栽植のもの、同十六年十二月十三日掘取り調査した所、倍率三・三三であつた。

土質を前述の成績より、又官設苗圃の成績などから調査して見るに、大體砂質壤土か腐植質を含む壤土が成績良好である。今官設苗圃中の肥大率二倍以上の成績の所を揭ぐれば次の通りである。

新高郡望鄕	砂質壤土	二・一倍
能高郡霧社	腐植質を含む砂質壤土	二・二九倍
同　萬大	砂質壤土	二・〇〇倍

次に植付時期は、自分の經驗からすれば、古薯を切斷し、種薯となす場合は、十二月から一、二月頃迄に植えた薯が腐敗率が少ない樣である。又生育狀態からしても良好の樣である。

植付時期は標高に依り多少の差異があることは考へらるゝが、十二月頃植ゑた薯の切口を見ると、八〇%とは言へないが大體に於て切口が脹れて發育して居る。然らざるものも、六月頃切斷した、古薯の切斷面の廣いものを植付たのは、切口が大體に於て凹み、觸るゝと外皮のみを殘し內部は虛の狀態にあるのが比較的多い樣である。

五、六月頃古薯の切薯は種薯として使用を避くるが、已むを得ず使用せんとする場合は、可成切斷面の小さい細長い薯を使用する等考慮する必要がある。

本年度の三坪園の試作の植付は、各郡共警務局指示の通り嚴重實施したが、新高郡に於ては植付を左の要領で行つた。三坪三十六株薯は個々の重量を測り、特に長薯と思へる薯は長さをも測つた。長型薯は(長)、丸型薯は(丸)、適當の種薯なく、掘り取りの際に鍬疵受けた薯を(キ)、古薯と考へらる薯を(フ)、と言ふ風に各記號を附し植付けたるを以て、來年度

は藷の各型に依る肥大率及疵藷と完全藷の肥大率、古藷と新藷の大小に依る肥大率の成績が發表出來得ると思ふ。

次に失敗談であるが、此れも幾分か參考となり得ればと考へるので發表する。新高郡治茆は野生玉咲が相當自生してゐるので、適地を選定して高砂協會經營で八分開墾して、十五年六月二十六日種芋八四九瓩五を植付たものを、十六年十一月二十五日全部掘り取つた所、其の間生育日數四八六日であつて、二三六瓩五であつた植付量より六一三瓩の減少を見たのである。掘り取り芋に付き白蟻其他被害の狀況を調査したのであるが、全然被害を認めなかつた。其の減少の主なる原因は適當の種藷が手に入らず、相當數の古藷を切斷したのを種藷としたのであるが、掘取つて見ると殆んど其の內部が虛になつてゐた。又全く原型のないものさへ澤山あつた。此は結局植付時期を失したこと及び切斷面の大きい古藷を澤山使用したが爲と考へられる。又丁度最盛期たる九月下旬に暴風雨の爲、被害を被つた爲生育中止し又は不良となつた爲と考へられた。

島形巡査部長 （臺南州理蕃課）

臺南州に於ても警務局理蕃課の指示に基き、三坪試驗區、一分園、官設苗圃、高砂族栽培の三つの方法に依つて試作して居る。

自生地の狀況

本年發見したサビキ社の一部に自生して居た玉咲ツヅラフヂは、恰も甘藷畑に於ける藷の如く、蔓も非常に繁茂して其の中を通行出來ないと言ふ狀態であつた。

試作地及自生地の狀況より見て、標高千米內外の地を最も適當の樣に思はれ、隨つて肥大率も良好である。又支柱は發育を助長し、敷藁は發芽を助くるに必要であると思はれる。

三神技手 （臺雄州理蕃課）

昭和十六年度高雄州蕃地に於ける試作成績を述べる事とする。試作の方法は警務局の指示に依つたものであつて、州下

四十箇所の三坪肥大率試驗區及二十五箇所の官設苗圃と、三十九箇所の高砂族試作栽培とに別れて居る。之等の成績を見るに餘り好成績とは云ひ得ないが、比較的成績良好と認めらるゝは、礫質或は砂質の壤土で、腐植質に富み排水の良好なる處である。此等の試驗試作を通じて見ると旗山郡のマスホワル、マガツン、タカヌワ屏東郡のトクブン、ブタイ、潮州郡下のパイワン、ボンガリ等が該當して居る。

屏東郡のトクブンは、特に堆肥を多量に施した結果七・六四倍と云ふ成績を見せ、又下パイワンに於ては四・三四倍と云ふ成績を見せて居る。粘質の土壤は玉咲の栽培には不適當である事は從來も論ぜられて居た所であつて、十六年度の官設苗圃のワカバ、アブダン、ボタンロ或は三坪試作のワカバ、アブダン、キナリマン等の成績不良に徵し明かであるが、又適當の水分を含有する傾斜地である處は、例へ粘質の土壤でも周到なる肥培管理を施せば相當の成績を得らるゝ樣である。屏東郡のサンテイモン、潮州郡のソウパウ等其の例である。

之に反し例へ礫質或は砂質の壤土であり腐植質を多く含有する處でも排水不良の處、或は乾燥の烈しい處に栽培したものは成績不良である。旗山郡のガニ、ビビュウ、ラボラン、屏東郡のカウ社潮州郡のアマワン、カピヤン等は其一例である。

又平坦地と傾斜地と何れが栽培に適するかと云ふに勿論種々な條件により一概には申せないのであるが、南部臺灣殊に高雄州の樣な乾燥期と雨期と明瞭なる處では、乾燥の害よりも寧ろ多濕の爲に腐敗或は生長を阻害され病蟲害を誘發する點より見て、尙山地の土地利用と云ふ點から考へて、相當急傾斜地(三十度乃至三十五度位にて可)に幅一尺―一尺五寸位の小幅の階段畑を作り栽培するのが有利の樣に考へられる。

玉咲の生育期間中は雨が多く急傾斜地でも水分に不足する事は少いからである。又野生の狀態に近く栽培すれば良いだらうと想像の下に旗山郡ガニ社に於て傾斜地を開墾し植付け、クロタラリアを播種密生せしめ放置せるまゝの處、クロタラリア或は鬼萱等が繁茂せる爲腐敗薯多く結局不成績に終つた例がある。

然し之も植ゑた薯は多く切つたものであつたこと、植付期日が遲く雨期に差掛つた爲ではないかと疑はれる點もあり、

何れか判明しない。
高雄州の如きは庇蔭の必要はあるが、前述の様に餘り密生せしめては却つて不結果に終る樣であり、クロタラリアを一條又は二條毎に播種して庇蔭とすれば結果良好である。旗山郡のラツクス社或は屛東郡ブダイ社の實生試驗に好結果を示して居る。
敷藁も好成績を示す樣であり、特に實生に於ては發芽當時の管理に良いのである。堆肥は必要ではあるが、腐熟の不完全なものは却つて腐敗旱燥の誘引となる樣である。標高は大體二千尺―三千尺の間が一番良い樣に思はれるが、低標高、高標高必ずしも肥培管理の方法によつては不良とは云ひ得ないと思ふ。
次に玉㕮の分布は現在の處大體南部は一千米程度となつて居るが、旗山タマホ社附近同郡ガニ、溪頭社の奥約二千米位の處に、畑に作つた樣に澤山あると云ふ事を同地の高砂族が話して居るが、果して事實かどうか調査することになつて居る。
結局玉㕮の栽培は可能である事は判るのであるが、蕃地の試作に於て成績の比較的擧つて居らないのは何に原因するかと云ふに次の諸項に依るのである。
一、栽植地の選定に當り適地を選定しなかつたこと。
二、適當なる時期に植付し得なかつたこと。
三、肥培管理の智識技術に缺けて居る爲適宜の時期に管理の手を盡さなかつたこと。例へば堆肥を必要とするも、未熟のものを施し、或は施さなかつたこと。或は除草も完全にしなかつたのと中耕は殆んどしなかつたこと。或は餘り乾燥するのに灌水の方法を講じなかつた。或は排水不良なのに排水の方法を講じなかつた等。
四、野生にて存在する狀態を見て、其れに近い栽培をすれば良いだらうと誤認して栽培したこと。
其他種々の原因があると思ふが矢張り栽培するに當り、適地の選定と、栽培後に於ける肥培管理によつて必ず好成績を

擧げ得るであらう事を、過去の試作の結果を見て想像確信するものである。

次に屏東郡ブタイ社に於ける實生試驗の結果を述べる。

一、採種年月日　昭和十六年七月四日より七月二十四日迄

標高二千七百尺（的場巡查擔當）

二、發芽試驗

播種月日	播種粒數	發芽開始月日	發芽粒數及率		摘要
			粒	%	
七月二十四日	一六九	八月二十五日	一一二	六六	採種と同時に外皮を去り播種日覆をなさず
自七月五日 至七月二十五日	七二二	九月二十日	三六五	五一	採種と同時に外皮を去り播種日覆をなしたるに發芽せざるを以て九月二日日覆をとる
九月五日	二〇〇	九月二十七日	九一	四六	外皮のまゝ蔭ぼしをなし七週間後播種せるもの

右により日覆棚をなす時は發芽不良なるを認めらる播種後敷藁をなす時は發芽及發芽當時の管理良好である。

三、發育試驗、供試本數　二〇本草丈平均

播種月日	九月五日調查	十月五日調查	十一月五日調查	十二月五日調查	摘要
七月二十四日	一寸二分	三寸二分	五寸一分	一尺一寸	十二月五日最大一尺九寸に達せり
自七月五日 至七月二十五日	—	一寸一分	三寸	七寸五分	十二月末には殆んど蔓は枯死の狀態にあり發育不良なり
九月五日	—	七分	二寸三分	六寸二分	同

四、根塊の肥大率

本調查は調查表なきを遺憾とす。

只一箇年目に於ける根塊の肥大率
最大二二瓦、最小四瓦なるを記せるのみなり。

根塊による試驗

供試株數　三六株

植付月日	發芽月日	植付當時數量	收穫當時數量	面積	摘要
二月二十日	三月五日	七二〇瓦	一五六〇瓦	二坪半	地勢三十五度の急傾斜地にして一尺五寸の階段畑として植付たり一株に五斤の堆肥を基肥として追肥をなさず播種と同時にクロタラリアを日蔭用として播種す結果良好なり、表土の流失及地力の維持に效あり

開花結實、開花せるもの五本で結實せるもの一本箇數十二箇なり、斯如二〇瓦程度にて結實する狀況より見て種子に依る實生增殖有望なりと思料する。

收穫當時の狀況

植付當時全部丸薯であつたが收穫當時は箸大の根塊（重量二瓦內外）多數あり一年もすれば相當肥大するものと認めらる、依て二箇年に一回收穫に改めれば新根は五瓦乃至七瓦位に肥大すべきを以て之を繁殖用に供する樣考慮すべきにあらずやと思料さる。

潮州郡　クワルスに於ける發芽試驗　供試粒數　一〇〇粒

播種月日	發芽	摘要
六月二十五日	三六本	雨覆を作る、八月中に三本發芽九月全部發芽豪雨を顧慮せず雨覆を作らず
七月二十六日	三六本	九月五日に一本發芽十月中旬迄發芽濟

根塊による試驗

全部發芽せり、芽のある薯は球根肥大し芽の無き薯は細長き球根を出してゐる。

施肥の分　　基肥豚糞　　人糞　　追肥一回人糞

二瓦植付　　最大　　一二瓦　　最小　七瓦

二〇瓦植付　　最大　　一三〇瓦　　最小五〇瓦

五〇瓦植付　　最大　　二二〇瓦　　最小九三瓦

無肥料の分

二瓦植付　　最大　　七瓦　　最小　四瓦

二〇瓦植付　　最大　　八〇瓦　　最小四一瓦

五〇瓦植付　　最大　　一四〇瓦　　最小八五瓦

階段畑を造り植付たるものは順調に成育する。

久保技手（臺東廳理蕃係）

昭和十六年度栽培狀況

郡名	苗圃名	箇所數	面積	植付量	收量	倍率
關山	官設苗圃	九	〇・九四五甲	七八五・五一瓩	一,三三二・九瓩	一・六九倍
臺東	同	五	〇・七八五	三一一・六二	三六・一	一・二五
計	同	一四	一・七三〇	一,〇九七・一三	一,六九三・九	一・五四
關山	三坪園	一四	四二坪	一〇・七二	四三・〇五	四・〇一
臺東	同	七	二一坪	二四・一七	三七・〇九	一・五三
計	同	二一	六三坪	三四・八九	八〇・一四	二・五八

右表に依ると成績良好とは言へないが、右の内關山郡リト苗圃に於て、一八〇瓩植付け苗圃の上から崩壞したゝめ、一〇〇瓩の收量しかなかつたのも含んでゐる。

標高に依る肥大率の差は認められないが、官設苗圃の最高肥大率は三・六四倍、三坪園七・八六倍となつてゐる。三坪園は官設苗圃に比較して、非常に成績良好であるが之は面積が狭い關係上肥培管理が充分行届くからだと思ふ。土質は砂質壤土か、又は腐植質を含む壤土に適し、砂質壤土にしても、關山郡の中野の如き土のしまる所では成績が良くない。臺東郡のチョカクライに於ては酸性の赤粘土質の處で、此處は三坪園が一・一倍、官設苗圃の方は植付量より半減して居るので、之は種芋の腐敗もあるが土質に依るものと思はれる。支柱は各所共桂竹、又は篠竹を立てたが桂竹の方は枝のあるのを立てた處、管理に不便であつた。本年度は篠竹の如き管理に便利なものを立てるつもりである。

關山郡の山脚地帶(標高一千尺内外)に於ては、溫度の關係で七月中に一回莖葉枯死し更に發芽生育するので、二期作可能と思はれるから、本年度は二期作の肥培による肥大率試驗を實施する豫定である。但し二回目の蔓には結實しない。

挿木試驗は實施したが、全部失敗した。關山郡の楠に於ては實生試驗を昨年七月十六日、床四坪に堆肥四貫を施し、五七六粒播種したが九月二十日頃發芽を終り、發芽率は七〇%にして、本年一月二十日に掘取つた所、最高一二瓦平均八瓦であつた。

病蟲害は「タイワンオホコホロギ」の被害及モザイク病が少々出たが大した影響は及ぼさずに終つた。

紅頭ツヅラフヂは本年度より着手の豫定である。

德重技手 (花蓮港廳理蕃係)

玉咲栽培に關しては警務局理蕃課の指示に基いて、三坪肥大率試驗區二五箇所と、一般苗圃二八箇所設置した。栽培地は標高六〇尺より、最高三、七〇〇尺で大體四—五〇〇尺前後の山脚地帶の平地であつて、生育中昨年七、八月頃若干の旱害を蒙つた箇所もあつたが其の成績倍率は左の如くである。

倍率	苗圃	三坪試驗區	摘要
二倍に達せざるもの	八箇所	八箇所	
二倍――三倍	一二	五	
三倍――四倍	二	五	
四倍以上	六	七	最高七倍

以上の如く、平均二倍以上になつてゐる。之を標高の高い山地と平地とを比較すると、標高の高い所は平地に比べて、病蟲害の發生と雜草の繁茂が幾分少いので、栽培は容易であるが、平地に於ても高地に劣らない。寧ろ高地以上の成績を擧げて居る場所も少くないのである。故に今後平地に於ても栽培に一寸注意すれば、他の作物に對抗し産業化し得ると思ふ。

土質は砂質壤土最も多く、次は埴質壤土、壤土であるが、何れも有機質の多い土地が良く、特に堆肥を充分に施したものが成績良好である。次に支柱及被蔭を兼ねて玉蜀黍を植ゑたが、其の方法は甘藷畦と同樣の高畦作りの畑と、畦のない平作りの畑に、夫々畦間に株間二尺前後の間隔を置いて、玉蜀黍を播いたので、之が平畦の方は玉蜀黍の根が延びて玉呎の肥料分を吸取る爲め、玉呎の太りが玉蜀黍を植ゑないものに劣つたが、高畦の溝に播いたものは成績が最も良好である。

實播を昨年七月ブセガン産業指導所に於て實施したが、一昨年果肉を叮嚀に水洗して取播した所、殆んど發芽しなかつたので今回は果肉を川砂で手にて相當强く揉取り、其儘床に播き、時々灌水し日覆をして置いた處、三週間にして約八〇%の發芽をし、本年一月掘取つた處、約五瓦前後に太つていた。此の成績より見て川砂で揉み果肉を取ることは、種子に幾分刺戟を與へ、或は發芽促進になるのではないかと思はれる。

栽培期間

目下繁殖を迫られてゐるので、毎年植替へる樣になつて居る。故に昨年色々の都合で植付時期を失したので、其儘二箇

年繼續栽培をした箇所が五箇所あつたが、此の中三箇所は土質が砂質で幾分旱害を受けたことゝ、手入が充分でなかつたので肥大率は一年栽培のものと大差はなかつたが、二箇所は土質がよく高畦作りであつたので、若干種薯の腐敗もあつたが成績よく七倍、九倍に肥大してゐる。之より見て經濟的に玉吠を栽培するには土地を良く選定し、堆肥を基肥として充分施し、排水に留意して二箇年繼續栽培することが有利ではないかと思ふ。

須永囑託（化學療法研究會、高雄州農場）

(一) 毎月植生育調査試驗

當高雄州農場は、其の生育條件著しく他諸地方と異るので、當農場獨自の玉吠植付適期と、其の生育の週期を確認せんが爲、毎月定期に甲乙二畦づゝ植付を行ひ、甲は何れも六箇月で收穫し、乙は一箇年後に收穫調査し、地下塊根の增量を調査すると共に、地上部成育の狀況を毎月調査記錄し、生育週期を確認しようと思つた。

試驗結果

本試驗は十六年七月に開始し、目下繼續中で未だ完了に至らないが、今日迄の成績は次の通りである。

毎月植試驗成績表

（地上發芽總數及蔓一尺以上に伸長せる株數の總植付株數に對する%を表示す）

調査＼植付	七月植 尺以上 a	七月植 尺以上 b	七月植 總數 a	七月植 總數 b
八月	一・〇	一・四	二三・三	二〇・三
九月	三・六	四・六	二三・四	三〇・〇
十月	六・六	八・三	三五・二	三五・六
十一月	七・三	一〇・五	三〇・〇	三三・六
十二月	八・二	七・一	二三・四	二七・〇
一月	二・八	二・七	一六・〇	一四・七
二月	×	〇	×	五・四
三月	×	〇・五	×	六・八
四月	×	三・〇	×	一二・二

植付／調査	八月植				九月植				十月植				十一月植				十二月植			
	尺以上		總數		尺以上		總數		尺以上		總數		尺以上		尺以上		總數		總數	
	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b
八月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
九月	〇・四	〇・三	一七・〇	一九・六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十月	七・三	七・五	四八・二	四六・七	〇・四	〇・四	二八・六	三三・〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十一月	一六・八	一七・六	四〇・三	四四・五	一一・三	九・三	四六・二	四一・三	八・一	一〇・八	五〇・五	四八・九	—	—	—	—	—	—	—	—
十二月	二五・八	二〇・四	四〇・〇	四三・一	一七・七	一七・一	四六・八	四五・二	二六・三	二五・三	五五・〇	五一・三	二・二	二・〇	一九・四	一八・〇	—	—	—	—
一月	一七・九	一五・〇	三〇・九	二七・〇	一六・六	一八・六	三五・〇	三四・六	二三・六	二三・〇	四〇・〇	三九・三	一五・七	一〇・七	二六・〇	二三・〇	〇	〇・三	一〇・〇	一一・〇
二月	一・五	〇・五	二三・〇	二三・〇	三・九	四・五	二〇・〇	一九・五	五・九	五・四	二一・〇	二五・六	一〇・六	八・八	二九・七	二一・八	三・三	五・五	一一・五	一三・八
三月	×	一・八	×	一〇・二	×	二・九	×	一九・二	六・三	五・一	三一・八	二五・七	九・五	九・〇	一九・一	二一・〇	四・八	五・九	一三・二	一五・四
四月	×	四・三	×	二一・六	×	六・三	×	一九・〇	×	八・六	×	三一・六	一二・五	一五・九	三二・七	三三・五	七・七	八・六	七・三	二一・四

	一月植				二月植				三月植			
	尺以上		總數		尺以上		總數		尺以上		總數	
	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	〇	〇	〇・九	〇・一	—	—	—	—	—	—	—	—
	三・九	一・〇	一五・三	八・〇	〇	〇	〇	〇・一	—	—	—	—
	四・七	三・三	二四・〇	一七・三	六・六	八・三	三七・四	三六・〇	一・八	〇・六	二四・七	一八・九

右表による觀察の結果、七月植以後十一月植の分まで、何れも地上發芽數の最高率を示せば、十二月—一月の間であつて、以後急速に低下し、二月を最低とし、三月、四月と次第に再び增加の傾向を示しつゝある。次に植付後六箇月後に於て收穫した地下部の成績は、次の通りである。

每月植試驗區收量調査表

植付月日 / 收穫月日	種芋種別	收穫箇數	減株數	植付數	減株率	收穫重量	總植付重量	總植付量に對する增減率	殘存株數の植付重量に對する增減率
一六、七、四 / 一七、一、五	三〇匁	一一八	八三	二〇〇	四一・〇%	四・八五〇瓩	四・〇〇〇瓩	二一・三%	一〇五・五%
	一〇	五四七	一七三	七三〇	二四・〇	五・六八〇	四・〇〇〇	四二・〇	八六・九
計		六六五	二五五	九三〇	二七・七	一〇・五三〇	八・〇〇〇	三一・六	九五・三

植付月日 收穫月日	種芋種別	收穫箇數	減株數	植付數	減株率	收穫重量	總植付重量	總植付量に對する增減率	殘存株數の植付重量に對する增減率
一六、八、九 一七、二、九	二〇	一五五	四五	二〇〇	二二・五	五・〇四〇	四・〇〇〇	一二六・〇	一六二・五
	一〇	三五三	一七三	五三六	三二・八	九・四一〇	四・〇〇〇	二三五・〇	二五〇・六
計		五〇八	二一八	七三六	三〇・〇	一四・四五〇	八・〇〇〇	一八〇・六	二五八・一
一六、九、七 一七、三、四	二〇	一八六	一四	二〇〇	七・〇	七・三五〇	四・〇〇〇	一八三・七	一九七・五
	一〇	五四七	八七	六三四	一三・七	九・一四〇	四・〇〇〇	二二八・五	二六四・八
計		七三三	一〇一	八三四	一二・一	一六・四九〇	八・〇〇〇	二〇六・一	二三四・五
一六、一〇、二 一七、四、一	二〇	一九三	七	二〇〇	三・五	七・〇六〇	四・〇〇〇	一七六・五	一八二・九
	一〇	五九三	七五	六六八	一一・二	九・三四〇	四・〇〇〇	二三三・五	二六三・〇
計		七八六	八二	八六八	九・四	一六・四〇〇	八・〇〇〇	二〇五・〇	二三一・二

右表に依れば、何れの月に植えたものに於ても、親芋より子芋を植た方が成績良く今迄の所九月植最も收量多く、十月植が之に次いでゐる。

（二）玉咲栽植密度試驗

一定面積に對する絶對收量の大小は、種芋植栽の密度に關係が多いと思はれるため、其の粗密の限度を知るため、左記の樣に各種の試驗區を設置した。種芋は一個一〇瓦とし、之を次の如く植付けた。

イ、一條植試驗區

A　標準　畦幅二尺　株間 {六寸五分 / 二寸一分五厘 / 四寸三分}

B　粗植　畦幅二尺五寸　株間　同右

C　密植　畦幅一尺五寸　株間　同右

ロ、株間に關する試驗（平畦幅五尺のもの二條植）

A　標準　條數二條　株間　四寸三分

農業部農業試驗所

B　密植　條數二條　株間　二寸一分五厘
C　粗植　條數二條　株間　六寸五分

八、條數に關する試驗（平畦五尺のものに二條―四條に植土）

A　標　準　株間　四寸三分
B　三條植　株間　｛四寸三分 二寸一分五厘｝
C　四條植　株間　同　右｛六寸五分｝

右項目に從ひ、昭和十六年八月三十日に植付たものを昭和十七年二月下旬に至り試掘せる結果によれば、次表の如き成績を示した。栽培期間（一八〇日）

栽植距離試驗成績

甲當換算之表

昭和十六年八月三十日植
昭和十七年二月中下旬試堀

一列植	植付×間隔	種芋の大小	五間畦とし甲當畦數	甲當種芋量	甲當收穫量	增減量 甲當增加量	增減量 %	腐敗 %
粗植	二尺・五寸×六寸・五分	一〇匁	一,四〇八 ×二・三	六四七,六八〇	一,三八一,二四八	七三三,五六八	一一三	七・二
粗植	二・五×四・三	一〇	一,四〇八 ×一六・二〇	九八五,六〇〇	一,九〇五・〇二四	九一九,四二四	九三	五
粗植	二・五×二・一五	一〇	一,四〇八 ×一九・一八	一,九七一,二〇〇	三,二四六,八四八	一,二七五,六四九	六四	八
標準	二・〇×六・五	一〇	一,七六〇 ×一四・三	八〇九,六〇〇	一,六一三,一六〇	八〇三,五六〇	九九	七・二
標準	二・〇×四・三	一〇	一,七六〇 ×八・二	一,二三二,〇〇〇	二,九五六,八〇〇	一,七二四,八〇〇	一四〇	四
標準	二・〇×二・一五	一〇	一,七六〇 ×二〇・一六	二,四六四,〇〇〇	三,九三五,三六〇	一,四七一,三六〇	五九	六・四
密植	一・五×六・五	一〇	二,三四七 ×六・一四	一,〇七九,六二〇	二,六二八,六四〇	一,五四九,〇二〇	一四三	四・五
密植	一・五×四・三	一〇	二,三四七 ×一七・一五	一,六四三,九〇〇	三,一五九,〇六三	一,五一六,一六三	九二	五・〇
密植	一・五×二・一五	一〇	二,三四七 ×一八・七	三,二八五,八〇〇	五,六三三,八〇〇	二,三四七,〇〇〇	七一	五・九

區別	植付×間隔（尺寸×寸分）	種芋の大小	五間畦とし甲當畦數	甲當種芋量	甲當收穫量	增減數 甲當增加量	增減數 %	腐敗 %
一列植	平均	—	—	一、五六八、七七二	二、九三九、七七二	一、三七一、〇〇〇	八七	—
二列植（標準）	二・五×四・三	大	七〇〇×一一・一九	九八〇、〇〇〇	二、一三六、〇〇〇	一、一五六、〇〇〇	一一七	一〇
	二・五×四・三	小	七〇〇×一〇・一七	九八〇、〇〇〇	二、二六八、〇〇〇	一、二八八、〇〇〇	一三一	九
三列植	一・七×六・五	大	七〇〇×一・四	九六六、〇〇〇	三、七八〇、〇〇〇	二、八一四、〇〇〇	二九一	六
	一・七×六・五	小	七〇〇×四・一三	九六六、〇〇〇	二、五六二、〇〇〇	一、五九六、〇〇〇	一六五	二四
	一・七×四・三	大	七〇〇×九・一〇	一、四七〇、〇〇〇	三、四〇二、〇〇〇	一、九三二、〇〇〇	一三一	二
	一・七×四・三	小	七〇〇×七・九	一、四七〇、〇〇〇	三、五七〇、〇〇〇	二、一〇〇、〇〇〇	一四三	三
	一・七×二・一五	大	七〇〇×一七・五	二、九四〇、〇〇〇	五、六七〇、〇〇〇	二、七三〇、〇〇〇	九三	一五
	一・七×二・一五	小	七〇〇×二一・二一	二、九四〇、〇〇〇	三、八二三、〇〇〇	八八三、〇〇〇	三〇	五三
四列植	一・二五×六・五	大	七〇〇×五・一一	一、二八八、〇〇〇	三、一三六、〇〇〇	一、八四八・〇〇〇	一四三	二〇
	一・二五×六・五	小	七〇〇×二・二	一、二八八、〇〇〇	四、九〇〇、〇〇〇	三、六一二、〇〇〇	二八〇	二九
	一・二五×四・三	大	七〇〇×三・三	一、九六〇、〇〇〇	五、三〇六、〇〇〇	三、三四六、〇〇〇	一七〇	六
	一・二五×四・三	小	七〇〇×一三・八	一、九六〇、〇〇〇	四、一七二、〇〇〇	二、二一二、〇〇〇	一一三	一四
	一・二五×二・一五	大	七〇〇×一九・六	三、九二〇、〇〇〇	六、四六八、〇〇〇	二、五四八、〇〇〇	六四	三・八
	一・二五×二・一五	小	七〇〇×一五・一	三、九二〇、〇〇〇	七、六四四、〇〇〇	三、七二四、〇〇〇	九五	三
平均	畦平均	—	—	一、九三二、〇〇〇	四、二〇二、五七一	二、二七〇、五七一	一一七	—

一列植えの他は五尺幅に五間の平畦に二列又は三列、四列に植たるもの也
種芋の大小に於て大とあるは平均一〇瓦小は一〇瓦以下也。
×は増加率より見たる成績順位也。
●は絶對増加量より見たる成績順位也。

右成績に於て觀察するに、平畦四列、植條間一尺二寸五分、株間二寸一分五厘のものに於て最も増加量が多いが、植付量に對する増加率は九五%に過ぎず。四列植、株間六寸五分のものは、増加率二八〇%であつて、甲當増收量も亦第二位である。増加率最大のものは、三列植、條間一尺七寸五分のものであつて、二九一%を示してゐる。

本試驗は第二回目を實施中であつて、其結果と對照して見ねば正確を期し難いが、株間は五六寸、甲當十萬株―十二萬株、種芋量一千瓩―千二百瓩を程度とするものゝ樣である。

(三)　種芋の大小比較試驗

前年度の試驗に於て、新しく生じたる子芋を種芋として使用する場合、最も收量大なる事を認めたが、更に種芋一個の大さは何程になすのが適當なるかを知らんが爲め、

親　芋　三〇瓦區　二〇瓦區　一〇瓦區
子　芋　一五瓦區　一〇瓦區　五　瓦區

を設けて試驗した。

種芋大小比較試驗區成績調査表

種芋種別	植付株數	收穫株數	減株數	減株率	植付重量	收穫重量	増加量	總植付量に對する増加	殘存株の植付量に對する増加
親芋三〇瓦	一四〇	一三一	九	六·四%	四,二〇〇瓦	五,六〇〇瓦	一,四〇〇瓦	三三·三%	四三·四%
同二〇瓦	一四〇	一三二	八	五·七	二,八〇〇	四,二〇〇	一,五〇〇	五三·五	六二·八
同一〇瓦	一四〇	一一二	二八	二·〇	一,四〇〇	二,一〇〇	七〇〇	五〇·〇	八七·五
計	四二〇	三七五	四五	一〇·六	八,四〇〇	一二,〇〇〇	三,六〇〇	四二·八	五·六

種芋種別	植付株數	收穫株數	減株數	減株率	植付重量	收穫重量	増加量	總植付量に對する増加	殘存株の植付量に對する増加
子芋五瓦	三二〇	二七二	四八	一五・〇%	一,六〇〇瓦	二,六〇〇瓦	一,〇〇〇瓦	六二・五%	九一・二%
同一〇瓦	一六〇	一五五	五	三・一	一,六〇〇	三,一〇〇	一,五〇〇	九三・七	一〇〇・〇
同一五瓦	一〇六	一〇三	三	二・八三	一,五九〇	二,六〇〇	一,〇〇〇	六八・二	六八・二
計	五八六	五三〇	五六	九・五	四,八〇〇	八,三〇〇	三,五〇〇	七二・九	八四・五

本試驗の結果に於ては子芋は親芋に優れ、子芋に於ては一〇瓦、親芋に於ては二〇瓦のものを種芋とする場合に最も良好の結果を示し、前年度と全く同一の成績を示した。

(四) 堆肥施用量比較試驗

前年度に於て實施した試驗成績により堆肥を能ふ限り多量に施用するを可とするのは勿論であるが、其限度、竝に經濟的施用量の決定に資する爲め左の試驗區を設けた。

イ、甲當一萬貫施用區(a堆肥全面撒布區　b堆肥條撒區)

ロ、甲當二萬貫施用區(a堆肥全面撒布區　b堆肥條撒區)

ハ、甲當三萬貫施用區(a堆肥全面撒布區　b堆肥條撒區)

試驗成績

目下實施中　未完了

(五) 實生試驗

玉喫栽培に於て、將來は實生による品種の改良と同一條件を具備する多數の種芋の供給を計るのは、最も捷徑たる可きにより、雌株を一定地域に集め、播種圃を設置し、一方實生による種芋の養成を行つてゐる。

試驗成績

本試驗は目下實施中にして、未だ確實なる成績を纏め難きも、昭和十六年八月二十日より十日毎に(採蒔)播種したるも

のに就て、其の發芽の狀態を見るに、八月二十日播きと十二月播きが特に發芽歩合多く、其他は極めて發芽惡しきか、又は全く發芽を見てゐない。

（六）　紅頭ツヅラフヂ栽培試驗

本年度に於て火燒島産の紅頭ツヅラフヂの蔓を得て、挿木育苗に關する試驗栽培を實施した

紅頭ツヅラフヂ挿木發芽調査

昭和十六年五月二十五日挿
昭和十六年六月二十五日調

挿穗の種別 芽數	新古	長短太細	調査數	發芽數	%	腐敗數	%	未發芽數	%
三芽	新梢	細の中	一〇〇	四五	四五	三九	三九	一六	一六
		中の中	一〇〇	四二	四二	三二	三二	二六	二四
		太の短	一〇〇	三一	三一	四九	四九	二〇	二〇
		太の中	一〇〇	五一	五一	二八	二八	二一	二一
	古蔓	中の長	一〇〇	三九	三九	五七	五七	四	四
	計		五〇〇	二〇八	四一	二〇五	四一	八七	一六
二芽	新梢	極細中	二〇〇	六七	三三・五	八八	四四	四五	二三
		太中	二〇〇	八六	四三	六四	三二	五〇	二五
	古蔓	太長	一〇〇	二一	二一	六九	六九	二〇	二〇
		細短	一〇〇	六三	一三	九〇	四五	四七	二三
	計		七〇〇	三三七	三三	三二一	四四	一六二	二三

備考　新梢とは表皮綠色を帶べるもの、古蔓とは木質化せるもの、新梢の太は（八―九ミリ）以上古蔓の細は新梢の太よりも太きもの、短は十二糎程度也

新梢古蔓活着率對照

新古	太細長短	芽數	調査數	發芽數	%	腐敗數	%	未發芽數	%
新梢	—	三	三〇〇	一三八	四六	一〇三	三四	六〇	二〇
古蔓	—	二	四〇〇	八三	二〇	二五四	六三	六三	一五

特殊挿穗の活着狀況

蔓の種類	調査數	發芽數	%	腐敗數	%	未發芽數	%
土中にありたりと思はるゝ有根の蔓	二〇〇	一三	六・五	一四三	七一	四四	二二
芽を有せざるもの	一〇〇	三	三・〇	八六	八六	一一	一一

備考　紅頭ツヅラフヂの育苗は當つては、挿木の當初より庇蔭設備を充分になし、灌水其他の管理も集約なるを要す。肥料も活着後大豆粕の腐敗汁等を稀めて施用する要あるを認めた。

（七）　追肥施用試驗

追肥の種類竝に其の施用法が、收量に及ぼす影響につき試驗する爲め、

イ、配合肥料追肥區　(a)一回追肥　(b)二回追肥　(c)三回追肥

ロ、液肥(硫安水溶液)追肥區、細別　同右

を設け目下試驗中である。

（八）　其他の試驗竝に調査

其の他全栽培地に於て必要に應じ、各種の試驗竝に調査を施行した。其の主なるもの左の通りである。

（イ）土壤の乾濕と收量との關係

昭和十六年九月に定植した玉咲を、十七年三月上旬に至り、濕地五箇所、普通地八箇所、乾燥地六箇所、調査個體二千五百六十株につき調査した結果は次の通りである。

土地の狀態	種芋種別	植付株數	收穫株數	植付重量	收穫量	增加率 增加量	腐敗率	備考
濕地	平均	一二八	一二〇	一、七六八瓦	四、二六四瓦	×一三八・四 •二、四七五	七・八%	五箇所平均
普通地	平均	一三〇	一一四	一、七三五	三、五五七	×九八・六 •一、七六六	一二・七	八箇所平均
乾燥地	平均	一四六	一三二	一、七七九	二、九四六	×六五・五 •一、一六六	一〇・九	六箇所平均

備考　×印は增加率　●印は增加量

右は其栽培期間は殆んど乾燥期に當り、圃場乾燥甚だしき時期であるが、濕地に於ては、收量最大にして乾燥地は收量が最も少い。依つて土壤には相當の濕氣を要し、灌漑の必要を認められる。

（ロ）種芋の部位と收量關係

牛蒡狀の子芋を切斷して種芋に供する場合、其の頭部と中央部（胴部）及尾部の何れが肥大率大なるかを調査する目的を以て、昭和十六年十月上旬に植込んだものにつき、昭和十七年四月上旬試掘調査した所、左記の成績を得た。

植付　昭和十六年十月上旬
收穫　昭和十七年四月上旬

種芋の部位と收量との關係調査

種芋の部位	新芋の頭部	新芋の胴部	新芋の尾部	新芋の最尾部	舊親芋	計
植付量	五七〇瓦　五七箇	一五〇瓦　一四箇	一、八一〇瓦　一八二箇	一、四七〇瓦　四一六箇	四、〇〇〇瓦　二〇〇箇	八、〇〇〇瓦　八六八箇
收穫量	一、五四〇　五五	三八〇　一二	四、〇八〇　一七六	三、三四〇　三五〇	七、〇六〇　一九三	一六、四〇〇　七八六
增減量	＋九七〇　－二	＋二三〇　－二	＋二、二七〇　－五	＋一、八七〇　－六六	＋三、〇六〇　－七	＋八、四〇〇　－八二
增減率	＋一七〇・二　－三・二	＋一五三・三　－一四・三	＋一二五・四　－二・七	＋一二七・二　－一五・九	＋七六・五　－三・四	＋一〇五　－九・五

増加部位　各部種芋總増加量に對する比率

種芋の部位	新芋の頭部		新芋の胴部		新芋の尾部		新芋の最尾部		舊親芋		計	
種芋	+三七〇瓦	三八・一%	+一一〇瓦	四七・八%	+一、二九〇瓦	五六・八%	+一、二九〇瓦	六九・〇%	+一、八〇〇瓦	五八・八%	+四、八六〇瓦	五七・九%
子芋	+四八〇	四九・五	+八〇	三四・八	+七〇〇	三〇・八	+四〇〇	二一・四	+八八〇	二八・八	+二、五四〇	三〇・二
細根	+一三〇	一三・四	+四〇	一七・四	+二八〇	一二・四	+一八〇	九・六	+三八〇	一二・四	+一、〇〇〇	一一・九
計	+九七〇	100	+二三〇	100	+二、二七〇	100	+一、八七〇	100	+三、〇六〇	100	+八、四〇〇	100

右調査成績によつて認めらる傾向は、

總増加量に於ては頭部＞胴部＞尾部の順位
種芋自體の肥大は尾部＞胴部＞頭部の順位
子芋の出來高は　頭部＞胴部＞尾部の順位
細根の出來高は　胴部＞頭部＞尾部の順位

にして、總増加率を大とするには新芋頭部を用ふるがよく、この場合次回種芋に適する新子芋を最も多く得られ、又細根を多く求むるには、新芋胴部を種芋とすれば可である。
此の調査は更に數回反復調査し、正確を期する豫定である。
其他、
以上の外試驗調査中のものも二―三あるが、何れも完結に至らないので記載を省略した。

鎮目技師　（臺灣生藥株式會社）

（一）　紅頭ツヅラフヂの「アルカロイド」含有量に就いて

火燒島にて採集した製藥用原料の中、野生なるを以て果して何年生のものか不明であつたが、木質化せる太莖、根（恐ら

農業部農業試驗所 1895 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH

くは）及び若莖とに就き分析した結果は、左表の通りである。

試料	アルコール抽出エキス	總アルカロイド
根	二三・五%	二・五一〇%
太莖（直莖五―六分）	二〇・一	一・九一五
若莖（直莖二―三分）A	一五・三	〇・八四三
B	一四・二	〇・七九一
C	一四・七	〇・七〇一
紅頭嶼 D	一三・八	〇・六九五
葉	―	〇・二一七
太莖壓搾汁	―	〇・五〇四

（二）玉咲ツヅラフヂに就いて

玉咲ツヅラフヂの「アルカロイド」が皮層部に多からんとの豫想の下に、鳳山熱化研農場に於て栽培した試料を、窪田氏より提供を受けて試驗した成績は、左表の通である。

試料	生薯量	風乾切干量	同水分	風乾物含量	無水物に換算含量	生薯五〇〇瓦よりの總得量
舊薯皮薄剝皮部	五〇〇瓦	一一〇瓦	一〇・六三%	一・一〇五%	一・二三六%	一・二二六瓦
同　肉部	五〇〇	一四〇	一三・一一	〇・六七〇	〇・七七三	〇・九三八
同　厚剝皮部	五〇〇	一三〇	一一・二三	〇・九四〇	一・〇五九	一・一三八
同　肉部	五〇〇	一四〇	一三・〇三	〇・六五〇	〇・七三九	〇・九一〇
新薯皮薄剝皮部	五〇〇	一一〇	一一・五六	一・〇三六	一・一七二	一・一四〇
同　肉部	五〇〇	一四〇	一一・九八	〇・六三〇	〇・七二六	〇・八八三
同　厚剝皮部	五〇〇	一三〇	一一・四〇	〇・八七七	〇・九八八	一・一四〇
同　肉部	五〇〇	一三〇	一三・一三	〇・五四八	〇・六一七	〇・八〇二
腐敗薯	五〇〇	七〇	一三・〇三	一・〇八三	一・二一八	〇・七五八

因に鬚根は 一一・二三七%

剝離せる表皮は 〇・三〇五%(少しく土砂を混入する)

(玉咲ツヅラフヂの連作)滿一箇年目毎に掘取り秤量し親薯のみ再び同一場所に植付け、かくして第四年目(昨年五月)一度は發芽生育しつゝあつたものが、如何なる事情か塊根が腐敗し初め、勿論地上莖は枯死したので、腐敗部分を切除し、過マンガン酸加里及石灰にて消毒し、再び發芽したがその後全部腐敗枯死した。

供試種薯	初年 昭和十三年	第二年 昭和十四年	第三年 昭和十五年	第四年 昭和十六年
一六〇瓦	親薯 三八〇瓦 子薯 九九〇瓦	—	—	—
三八〇	—	親薯 一、〇四〇 子薯 七三〇	—	—
一、〇四〇	—	—	親薯 一、五四〇 子薯 二九〇	—
一、五四〇	—	—	—	腐蝕枯死
種薯に對する滿一箇年倍率	九・二倍	四・六六倍	一・七七倍	〇

玉咲の連作は別に何等の支障を認めないが病害豫防と種薯の選擇には、是非子薯或は實生薯を以てすべきものと考へて居る。

石黑技師 (臺灣生藥株式會社)

當社農場では昭和十三年に玉咲ツヅラフヂの試作を開始し、同十四年には諸種の試驗(圃場に於て)をなし、其等の試作成績によつて栽培の大綱を定め、十五年度より一甲步の山地栽培 (二箇年放置) 試驗をなし、十六年度に於て尚不良なる二、三の栽培試驗を行ひ、本年度に於ては愈々山地栽培の結論を得んとして、一甲步の栽培を續行し、尙二、三の不明なる栽培試驗をも行はんとしてゐる。

依つて此の座談會で述べることも、一部昨年の實績を、結論に於て如何なる方法により玉咲ツヅラフヂの栽培を完成せんとするかを、初年よりの諸種試作結果を綜合して述べるに過ぎない。諸大家が精魂を打込んで試作栽培したる結果により當社の栽培法に對し批判のメスを願ひ以て、玉咲栽培の結論を承はることを得ば、甚だ幸だと思ふ次第である。

（一）昭和十五年四月二十日植付、昭和十七年二月二十日收穫。山地栽培による。標高の差異による收穫成績。（栽培地及栽培方法の詳細之を省略す）

	標高一五〇米—二五〇米		標高二五〇米—三五〇米	
大根（主に親芋）	二五一箇	一〇・二四〇瓩	三四八箇	一四・五一〇瓩
中根（主に子芋）	一一五	二・三二〇	一七〇	二・七〇〇
小根（主に子芋）	四二三	二・六二〇	六七〇	三・二六〇
株數	二八五（株）	合計一五・一八〇	株數三四八（株）	合計二〇・四七〇

備考　標高によりて面積を半分に分ち試驗したもの。

之によつて生育株數が標高高き程多く、肥大率も大となることを知ることが出來る。この試驗に於て良好なる成育を遂げたものは肥大率十倍に達したものもある。

（二）昭和十六年五月末、標高と土壤との變化による比較試驗を、二〇〇米以下の山地三箇所につき施行した所、標高二〇〇米鬼茅跡開墾地最も生育良好にして、缺損株一割强であつた。之が實績は明年收穫後に非ざれば判明しない。

（三）種子發芽試驗

昨年度八二六箇に付き發芽試驗を行つた所、九三%の發芽率を得た。本年は一月十日四〇四箇をとり播いた所、四〇日目より發芽を開始し、大體三月中旬迄に發芽を了し、其後今日迄月、數箇宛の發芽をなし、總數二二一箇の發芽を見た。然し「タイワンオホコホロギ」又は病害のため枯死今日生育中のもの一八〇株である。

（四）昭和十三年來、諸種の試驗栽培をなし、綜合して得た栽培法左の通りである。

(1) 植付土地の選定

農業部農業試驗所 1895

(イ) 氣象　氣象狀態は臺南山脚地帶を基準とす。

(ロ) 標高　標高は現在自生せる地方を最も適當とすべきも、他の栽培土地條件さへ完備すれば、當地方に於て二〇〇米以上の標高を有する地に於て栽培し得る。夫れ以下の地は病蟲害が多い。

(ハ) 傾斜　相當の傾斜を有し、雨期に於ても土中の水分過剩ならざる樣、卽ち含水量六〇%以上にならない處、土質によるも、傾斜度二十度以上三十度迄を適當とする。

(ニ) 土質　砂土又は砂質壤土にして、少々礫を交ふるも可である。然し多量の腐植質を含有することは絕對條件である。

(ホ) 庇蔭　西又は南に山地を控え半日は陽光の直射を遮る處。

(ヘ) 傾斜面の方向　東面又は北面にして、東又は北には風を防ぐべき山を有すること。

(2) 繁殖方法

(イ) 實生繁殖　取播すると發芽率良好であつて、少なくとも播種箇數に對し二〇―三〇%の子芋を得可く、之を育苗圃にて一年間養成すると一〇―二〇瓦に達す。之を山出しする。

(ロ) 小塊根　親芋より離したる二〇―三〇瓦のものを山出しする。實生繁殖に次ぐ良法。

(ハ) 大塊根の切斷繁殖　病菌の侵入甚だしく腐敗を招くため、適當なる繁殖法でない。

(3) 栽培方法

(イ) 階段畦造成　階段畦造成の上之に中高畦を作り、之の畦上に植付ける。

(ロ) 植付距離　此の階段畦は傾斜度二〇度以上とすると、畦幅三尺として一畦又は二畦、之に二尺株間にて植付ければ六千本內外である。

(ハ) 植付時期　當地方は二―三月で降雨の直後又は直前に行ふ。

(ニ) 支　柱　植付と同時に竹にて支柱を設ける。

(ホ)除草培土適宜行ふ。

(ヘ)施肥　腐植質豐富なる土地であるから、堆肥を要しない。窒素陌一二〇瓩加里一〇〇瓩燐酸四〇瓩。

(ト)植付より收穫迄二箇年—三箇年。

(4)　生產額及生產費

甲當一千瓩內外、生芋瓩當一圓內外。

(5)　臺灣に於ける玉咲ツヅラフヂ增殖策

前述の如き適地は大面積には存しないが、小面積には隨所に發見される。卽ち山脚地帶に適地を求め、山地農家を指導して栽培せしむれば、所要の塊根生產は可能と思はれる。蕃地に於ても派出所に近い部落の高砂族に、適地を選定し小面積宛でも栽培指導すれば、成果が擧ると思はれる。

藤井技師　（臺灣製糖株式會社）

(一)　試驗方法

(1)　植床　昭和十四年十二月二日

縱四・〇米、橫一・〇米、高さ〇・九米の無底の木框を作り、之を地上に三〇糎出る樣に埋沒し、その底部に小石を約一五・〇糎敷き、其上に排水良好な砂質壤土と堆肥陌當三〇〇立方坪とを混和したもの（昭和十四年一月混和し堆積して置いたもの）を充塡した。而して框の一端に深さ約四〇糎の縱溝を設けて排水に備へた、各框の間隔は一・〇米とし、その周圍には多年生田菁を一條に密植し、生長に從ひ之を間引き被蔭と防風を兼ねしめた。

(2)　植付　昭和十四年十二月六日

種薯は山地自生地より採取し、昭和十四年植付、同年十一月掘取つたものを使用し、切斷して供用したものには、木灰を塗布し平植として、何れも約一二・五糎の深さに植込み覆土した。實生は旗山、大學演習林より前年發芽直後のものをも

らひ受け塊根同様昭和十四年十一月掘取り供用したものである。

(3) 支柱

割竹を用ひ框の全面に高さ二・〇米の柵を作り支柱を各株毎に立て之に連結せしめた。

(4) 灌漑

植付に先だち充塡土壤の鎭壓と保水とを兼ね、底盤迄充分滲透する様灌水を行つた。

植付後は乾燥の都度之を行つた。

(5) 試作條件は左の通り

試験別	區分	栽植密度 畦幅	栽植密度 株間	植付本數
A 實生塊根肥大率調査	(1) 原形の儘	五〇糎	三〇糎	一三
	(2) 二つ割	五〇	三〇	一〇
	(3) 四つ割	五〇	三〇	四
	(4) 細根	五〇	三〇	四
B 塊根の雌雄及大小による肥大率調査	(1) イ 雌の原形の儘	五〇	七〇	五
	ロ 雄 同	五〇	七〇	五
	(2) イ 雌の根狀の薯(大)	五〇	四〇	一〇
	ロ 雄 同 (同)	五〇	四〇	一〇
	(3) イ 雌の根狀の薯(中)	五〇	四〇	二五
	ロ 雄 同 (同)	五〇	四〇	二五
	(4) イ 雌の根狀の薯(小)	五〇	四〇	一〇
	ロ 雄 同 (同)	五〇	四〇	一〇

（二）摘要

(1) 本試驗は木框にて施行し、庇蔭樹として多年性田菁 S. Sesban を木框の周圍に栽植した。肥料としては堆肥のみ施用した。

(2) 本試驗に於ては實生及雌雄大小による薯の肥大率を調査した。

(3) 昭和十四年十二月六日植付（十一月十八日收穫掘取りたるもの）、翌年八月二十六日收穫調査した。

(4) 發芽は全部したが長期間を要し大體三月迄に終了したが、四月に漸く發芽するものもあつた。

(5) 實生薯肥大率調査には第三年目のものを供用した。

1. 原形の儘　十三箇植付　一株雌雄開花　薯の肥大率四・一七倍（一六・七瓦—六九・五瓦）
2. 二つ割　十箇植付　五株開花　薯の肥大率八・一六倍（一〇・一瓦—八三・六瓦）
3. 四つ割　四箇植付　開花せず　薯の肥大率四・〇四倍（一二・八瓦—五一・五瓦）
4. 細根（徑一・二分—長さ一・二寸）　四箇植付　開花せず　薯の肥大率一八・八三倍（一・五瓦—二八・三瓦）

即ち薯の肥大率は植付方法の如何によらず、種薯の大小により小なるもの程大なる様である。又開花するものは收穫薯の重量一〇〇瓦以上のものゝ様である。

（三）薯の雌雄及大小による肥大率調査

(1) 原形の儘（塊根）

雌雄各々五箇宛一〇〇瓦以上のものであつて、重量の異れるものを供用した。雌は五株の全部、雄は三株開花した。

薯の肥大率は種薯の大小により差を認めない。雌雄による肥大率は平均雌一・六二倍にして雄の一・一一倍に稍優つてゐる。

(2) 根狀の薯の大なるもの

雌雄一〇箇宛植付雌一株、雄八株開花し、薯の肥大率は平均雌二・六八倍、雄二・四〇倍である。

(3) 根狀の薯の中なるもの

雌雄二五箇宛植付、雄一八株開花し、雌は開花せず、薯の肥大率は平均雌五・二八倍、雄五・七一倍である。

(4) 根狀の薯の小なるもの

雌雄一〇箇宛植付何れも開花せず、薯の肥大率は平均雌六・五五倍、雄九・一一倍にて雄、大である。

即ち塊根をその儘植付たものゝ薯の肥大率は小さく、根狀の薯を植付たものゝ肥大率は比較的大であつて、種薯の小なるもの程大である。雌雄による薯の肥大率は一定の傾向を認めない。

(四) 試作成績一覽表

A 實生塊根肥大率調査

(第一表) (1) 原形の儘

栽植密度 五〇×三〇糎

項目＼株 No.	發芽月日	開花月日	結實月日	植付時の薯の重量
1	一四・一二・一七	—	—	二三
2	一四・一二・二五	—	—	一三
3	一四・一二・一七	—	—	二二
4	一五・二・二八	—	—	一五
5	一五・二・一五	—	—	一七
6	一五・二・二八	—	—	二三
7	一五・二・一六	—	—	一一
8	一五・二・一七	—	—	一〇
9	一五・二・二五	—	—	六
10	一五・三・一七	—	—	一九
11	一五・三・一一	—	—	一五
12	一五・三・一五	一五・五・上	—	一一
13	一五・三・一〇	—	—	三四
計	—	—	—	二一七
平均	一五・二・一五	—	—	一六・七

項目＼株 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	計	平均
收穫時の藷の重量	六五	九〇	一七五	七二	六六	八六	腐敗	腐敗	腐敗	一〇五	三四	四七	一六四	九〇四	六九・五
藷の肥大率	二・九五	六・九二	八・三三	四・八〇	三・八八	三・七四	—	—	—	五・五三	二・二七	四・二七	四・八二	—	四・一七
採種數	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(第二表) (2) 二つ割

栽植密度 五〇×三〇糎

項目＼株 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	平均
發芽月日	一五・三・一	一四・一二・一七	一四・一二・一七	一四・一二・一〇	一四・一二・九	一五・二・八	一五・二・二九	一五・二・八	一四・一二・一八	一五・二・七	—	一五・一・一五
開花月日	—	—	—	—	一五・四・下	一五・四・下	一五・五・上	一五・五・上	一五・四・上	—	—	—
結實月日	—	—	—	—	一五・五・上	一五・五・上	—	—	—	—	—	—
植付時の藷の重量	八	八	六	六	一二	八	七	九	一八	二〇	一〇二	一〇・二
收穫時の藷の重量	一七	一九	三六	二〇	一四九	一〇四	八二	一二五	二五五	二九	八三六	八三・六
藷の肥大率	二・一三	二・三八	六・〇〇	三・三三	一二・五五	一三・〇〇	一一・七一	一三・八九	一四・一七	一・四五	—	八・一六
採種數	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(第三表) (3) 四つ割

栽植密度 五〇×三〇糎

項目＼株 No.	1	2	3	4	計	平均
發芽月日	一五・二・八	一五・三・一	一四・一二・八	一五・二・二四	—	一五・二・二
開花月日	—	—	—	—	—	—
結實月日	—	—	—	—	—	—

農業部農業試驗所 1895

(4) 細根

栽植密度 五〇×三〇糎

項目 ＼ 株 No.	1	2	3	4	計	平均
植付時の薯の重量	一四	一四	一一	一三	五二	一三・〇
收穫時の薯の重量	五七	一〇七	二二	二〇	二〇六	五一・五
薯の肥大率	四・〇七	七・六四	二・〇〇	一・六七	—	四・〇四
採種數	—	—	—	—	—	—

B 塊根の雌雄及大小による肥大率調査

（第四表） (1) 原形の儘

雌 栽植密度 五〇×七〇糎

項目 ＼ 株 No.	1	2	3	4	計	平均
發芽月日	一五・三・二四	一五・三・二四	一四・一一・二五	一四・一二・一七	—	一五・一・七
開花月日	—	—	—	—	—	—
結實月日	—	—	—	—	—	—
植付時の薯の重量	二・〇	一・五	一・五	一・〇	六・〇	一・五
收穫時の薯の重量	三三	二九	三〇	二二	一一三	二八・三
薯の肥大率	一六・五〇	一九・三三	二〇・〇〇	二二・〇〇	—	一八・八三
採種數	—	—	—	—	—	—

項目 ＼ 株 No.	1	2	3	4	5	計	平均
發芽月日	一五・三・二	一五・四・一五	一五・四・一五	一五・二・一三	一五・三・一三	—	一五・三・一七
開花月日	一五・三・上	一五・七・下	一五・五・上	一五・五・上	一五・五・上	—	—
結實月日	一五・四・下	一五・八・上	一五・五・下	一五・五・下	—	—	—
植付時の薯の重量	五二一	二六〇	一八六	一二三	一七六	一、二六五	二五三
收穫時の薯の重量	九三五	二九四	二六四	三五五	二〇三	二、〇五一	四一〇
薯の肥大率	一・八三	一・一三	一・四三	二・六九	一・一五	—	一・六三
採種數	九三	—	一四七	一二八	—	三六八	七三六

雄　栽植密度　五〇×七〇糎

項目 ＼ 株 No.	1	2	3	4	5	計	平均
發芽月日	一五・二・一三	一五・三・二五	一五・四・二〇	一五・四・二七	一五・四・二四	—	一五・四・三
開花月日	一五・四・上	—	一五・五・下	一五・五・下	—	—	—
結實月日	—	—	—	—	—	—	—
植付時の薯の重量	八〇五	三一〇	三七〇	二四〇	一三二	一、八五七	三七一
收穫時の薯の重量	八六〇	三八二	三八五	三〇〇	一二九	二、〇五六	四一一
薯の肥大率	一・〇七	一・一九	一・〇四	一・二五	一・〇六	—	一・一一
採種數	—	—	—	—	—	—	—

(第五表の一)　(2) 根狀の薯 (大)

雌　栽植密度　五〇×四〇糎

（第五表の二）　(2) 根狀の薯（大）

雄　栽植密度　五〇×四〇糎

項目＼株 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	平均
發芽月日	一五・二・一〇	一五・一・一〇	一五・一・一〇	一五・二・七	一五・一・九	一五・二・八	一五・一・三一	一五・二・二七	一五・二・二六	一五・二・二八	―	一五・二・三
開花月日	―	―	―	一五・三・下	―	―	―	―	―	―	―	―
結實月日	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
植付時の薯の重量	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	一,〇五六	一〇五・六
收穫時の薯の重量	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	二,八二六	二八二・六
薯の肥大率	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	二・六八
採種數	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	一	〇・一〇

（第六表の一）　(3) 根狀の薯（中）

雌　栽植密度　五〇×四〇糎

項目＼株 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	平均
發芽月日	一五・三・七	一五・二・九	一五・二・八	一五・三・二	一五・三・三	一五・二・八	一五・二・七	一五・三・一	一五・三・七	一五・一・二四	―	一五・二・二九
開花月日	一五・四・上	一五・三・下	―	一五・四・下	一五・四・下	一五・三・下	一五・五・上	―	一五・四・下	一五・四・上	―	―
結實月日	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
植付時の薯の重量	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	七一九	七一・九
收穫時の薯の重量	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	一,七二五	一七二・五
薯の肥大率	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	二・四〇
採種數	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―

農業部農業試驗所 1895 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

（第六表の二）(3) 根狀の薯（中）

雄　栽植密度　五〇×四〇糎

項目＼株 No.	發芽月日	開花月日	結實月日	植付時の薯の重量	收穫時の薯の重量	薯の肥大率	採種數
1	一五・二・五	－	－	－	－	－	－
2	一五・一・二四	－	－	－	－	－	－
3	一五・一・二四	－	－	－	－	－	－
4	一五・二・一〇	－	－	－	－	－	三
5	一五・一・一三	－	－	－	－	－	－
6	一五・一・一〇	－	－	－	－	－	－
7	一五・一・一三	－	－	－	－	－	－
8	一五・二・二九	－	－	－	－	－	－
9	一五・二・八	－	－	－	－	－	－
10	一五・二・八	－	－	－	－	－	－
11	一五・三・一	－	－	－	－	－	－
12	一五・二・二六	－	－	－	－	－	－
13	一四・一二・二七	－	－	－	－	－	－
14	一五・三・三	－	－	－	－	－	－
15	一五・一・二四	－	－	－	－	－	－
16	一五・二・一三	－	－	－	－	－	－
17	一五・二・一〇	－	－	－	－	－	－
18	一五・三・一	－	－	－	－	－	－
19	一五・二・九	－	－	－	－	－	－
20	一五・三・一	－	－	－	－	－	－
21	一五・二・二六	－	－	－	－	－	－
22	一五・二・九	－	－	－	－	－	－
23	一五・二・九	－	－	－	－	－	－
24	一五・二・二〇	－	－	－	－	－	－
25	一五・二・二六	－	－	－	－	－	－
計	－	－	－	六八一	三,五九六	－	三
平均	一五・二・一〇	－	－	二七・二	一四三・八	五・二八	〇・一二

(第七表の一)　(4) 根狀の薯 (小)

雌　栽植密度 五〇×四〇糎

株 No. ／ 項目	發芽月日	開花月日	結實月日	植付時の薯の重量	收穫時の薯の重量	薯の肥大率	採種數
1	一五・一・二四	—	—	—	—	—	—
2	一五・三・三	—	—	—	—	—	—
3	一五・一・一九	—	—	—	—	—	—
4	一五・一・二三	—	—	—	—	—	—
5	一五・二・九	—	—	—	—	—	—
6	一五・二・九	—	—	—	—	—	—
7	一五・二・九	—	—	—	—	—	—
8	一五・二・二四	—	—	—	—	—	—
9	一五・三・二	—	—	—	—	—	—
10	一五・二・七	—	—	—	—	—	—
11	一五・二・二九	—	—	—	—	—	—
12	一四・一二・二七	—	—	—	—	—	—
13	一五・一・二四	—	—	—	—	—	—
14	一五・三・一	—	—	—	—	—	—
15	一五・三・三	—	—	—	—	—	—
16	一五・二・九	—	—	—	—	—	—
17	一五・三・二	—	—	—	—	—	—
18	一五・三・三	—	—	—	—	—	—
19	一五・二・八	—	—	—	—	—	—
20	一五・二・七	—	—	—	—	—	—
21	一五・三・二	—	—	—	—	—	—
22	一五・三・二	—	—	—	—	—	—
23	一五・二・五	—	—	—	—	—	—
24	一五・一・二四	—	—	—	—	—	—
25	一五・二・七	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	六七三	三、八四〇	—	—
平均	二・一一	—	—	二六・九	一五三・六	五七一	—

項目 ＼ 株 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	平均
發芽月日	一五・一・二三	一五・一・二三	一五・二・二八	一五・二・八	一五・二・二八	一五・一・二三	一五・二・一〇	一五・二・二八	一五・一・二四	一五・一・一二	—	一五・二・三
開花月日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
結實月日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
植付時の薯の重量	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇九	一〇・九
收穫時の薯の重量	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七一四	七一・四
薯の肥大率	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六・五五
採種數	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（第七表の二）(4) 根狀の薯（小）

雄　栽植密度　五〇×四〇糎

項目 ＼ 株 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	平均
發芽月日	一五・三・八	一四・一二・二八	一五・三・三	一五・一・一二	一五・三・二	一五・三・八	一五・三・二	一五・三・七	一五・三・三	一五・三・一	—	一五・二・一二
開花月日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
結實月日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
植付時の薯の重量	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六一	六・一
收穫時の薯の重量	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五五六	五五・六
薯の肥大率	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	九・一二
採種數	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

吉良九州男（星規那産業株式會社）

規那樹と玉咲ツヅラフヂの要求する天然條件が類似してゐる關係上、規那樹の跡作及間作として適當なる作物であるか、又國策的重要作物であると云ふ見地からして、昭和十三年より試作を行つたが、規那樹の増植に急であつた爲、之が試作も系統的に實行したわけではないので、諸氏の前に發表するだけの結果の持ち合せないが概略を求べたいと思ふ。

一、試作地の位置

臺東廳臺東郡卑南庄知本。

二、標高及方位

海拔五〇〇米、東北向傾斜一〇度。

三、土　質

粘質壤土、規那圃場跡地。

四、試作の經過及觀察

(1) 昭和十三年八月臺東廳より種芋二四球の分譲を受け植付増殖を計る。

(2) 昭和十六年三月二四二坪の試作園を設け、畦間三尺、株間一尺五寸の間隔を以て、種芋は適當の大さに切斷して植付た。

(3) 支柱を施さず蔓を匍匐に任せ、施肥、敷藁等を施さず、時々除草を實施しただけである。

(4) 滿一年後の成績は、枯損株一割、塊根の大さは種芋の大さに比例するが、大體二〇瓦の種芋は八〇瓦となつて居り肥大率は四倍となつて居た。

(5) 根の肥大率は二箇年間置いても其の割合に肥大せぬ。中には古い部分が腐敗し、却つて小さくなる傾向を示すものがある。

農業部農業試驗所

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

(6) 形狀は球形のものが少く、朝鮮人參の如く數箇に長く分岐するものが多くあつた。

(7) 病害として白澁病の發生を見受けた。

(8) セフアランチンの含有量については、目下分析中であつて未だ結果は出てゐない。

(9) 繁殖に付いては、

種子により實行(採り播き)したものは、八〇%—九〇%の發芽を見た。移植の爲掘り揚げた跡地に殘つた細根より次々と發芽し恰も雜草の如く、取れども跡を絶たない様な蕃殖振である。

當事業地に於いては、玉咲ツヅラフヂの增殖栽培に付いては樂觀して居る次第である。

先般(三月中旬)貴島技師が山地試作調査に來場の際、東部地方では富農々場のものが最も成績が良いとの話である。

五、本年から現在あるものから組織的に一、二甲栽培を實施して見たいと思ふが、諸氏の御援助御指導を願ひたいと思ふ。

尚紅頭ツヅラフヂに付いては、臺東廳に於て計畫がある樣であるから、廳の方と連絡を取り實施したいと思ふ。

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895